

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本体の構成各部

周辺機器を利用する

システム設定

PC98-**NX** シリーズ

Mate

液晶一体型

(Windows XP Professionalインストールモデル)

(Windows XP Home Editionインストールモデル)

(Windows 2000 Professionalインストールモデル)

本機に添付されているマニュアルを、目的にあわせてご利用ください

ご購入いただいたモデルによっては、下記以外にもマニュアルが添付されている場合があります。『はじめにお読みください』『7. マニュアルの使用方法』でご確認ください。

添付品の確認、本機の接続、Windows XP、Windows XP Home、またはWindows 2000のセットアップ
→ 『はじめにお読みください』

本機を安全に使うための情報
→ 『安全にお使いいただくために』

Windowsの基礎知識、基本的な操作方法
Microsoft社製『ファーストステップガイド』または『クイックスタートガイド』

このマニュアルです

本機の各部の名称・機能、本機の機能を拡張する機器の取り付け方、内部構造の説明、システム設定(BIOS設定)
→ 『活用ガイド ハードウェア編 液晶一体型』(電子マニュアル)

本機にインストール/添付されているアプリケーションの削除/追加、他のOSのセットアップ
→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)

トラブル解決方法
→ 『活用ガイド ソフトウェア編』(電子マニュアル)

再セットアップ方法
→ 『活用ガイド 再セットアップ編』

環境に関する情報
→ 『環境ガイド』

選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)の利用方法
→ Office Personal 2003、Office XP Personal、Office XP Professional
があり、マニュアルが添付されています。ご使用のモデルによって異なります。

パソコンに関する相談窓口、故障時のサービス網、およびNECの企業向けパソコン関連総合サイト『NEC 8番街』のご案内
→ 『NEC PCあんしんサポート』

Microsoft関連製品の情報について

次のwebサイト(Microsoft Press)では、一般ユーザー、ソフトウェア開発者、技術者、およびネットワーク管理者用に、Microsoft関連製品を活用するための書籍やトレーニングキットなどが紹介されています。

<http://www.microsoft.com/japan/info/press/>



はじめに

このマニュアルは、フォルダやファイル、ウィンドウなど、Windowsの基本操作に必要な用語とその意味を理解していること、また、それら进行操作するためのマウスの基本的な動作が一通りでき、Windowsもしくは添付のアプリケーションのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に書かれています。

もし、あなたがパソコンにはじめて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などで一通り経験してから、このマニュアルをご利用になることをおすすめします。

この活用ガイドは、以下の機種について書いてあります。

PC98-NXシリーズ Mate
MY10F/FE-D、MY10F/FR-D、MY80F/FR-D
(Windows XP Professionalインストールモデル)
(Windows XP Home Editionインストールモデル)
(Windows 2000 Professionalインストールモデル)

選択アプリケーション、本機の仕様については、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

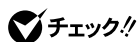
仕様についての詳細は、「Mate/Mate R電子マニュアル」の「機能仕様一覧」をご覧ください。

2003年11月 初版

このマニュアルの表記について

このマニュアルで使用している記号

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。また、全体に関する注意については、「注意事項」としてまとめて説明しています。



パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。



利用の参考となる補足的な情報をまとめています。



マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。



Windows XPに特有の機能や操作について説明しています。



Windows XP Homeに特有の機能や操作について説明しています。



Windows 2000に特有の機能や操作について説明しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

本機	<p>次の機種を指します。 PC98-NXシリーズ Mate MY10F/FE-D、MY10F/FR-D、MY80F/FR-D (Windows XP Professionalインストールモデル) (Windows XP Home Editionインストールモデル) (Windows 2000 Professionalインストールモデル)</p> <p>* 本機がどのモデルに該当するかは、型番を調べればわかります。型番の調べ方・読み方については、『はじめにお読みください』をご覧ください。</p>
本体	ディスプレイやキーボードなどの周辺機器を含まない、Mateを指します。
CDレスモデル	CD/DVDドライブがない状態でご購入いただいたモデルを指します。
アプリケーションレスモデル	選択アプリケーション(ワードプロセッサ/表計算ソフトウェア)がない状態でご購入いただいたモデルを指します。
Office 2003モデル	Office Personal 2003がインストールされた状態でご購入いただいたモデルを指します。
Office XPモデル	Office XP Personal、またはOffice XP Professionalがインストールされた状態でご購入いただいたモデルを指します。
CD/DVD	CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-R、DVD-RW、またはDVD-RAMを指します。 書き分ける必要のある場合は、その媒体の種類を記載します。
CD/DVDドライブ	CD-ROMドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、またはDVDマルチドライブを指します。書き分ける必要のある場合は、そのドライブの種類を記載します。
無線LANモデル	無線LAN(IEEE802.11a/b/g)機能を搭載しているモデルを指します。
アプリケーションCD-ROM/ マニュアルCD-ROM	本機添付の「バックアップCD-ROM(OSを除く)アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」または、「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」を指します。
「スタート」ボタン 「終了オプション」	Windows XPでログオンやログオフの方法を変更している場合は、「終了オプション」のメニューが異なります。このマニュアルでは「ようこそ画面」を使用している場合を例に説明しています。
「スタート」ボタン 「コントロールパネル」	Windows XPの「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。また、コントロールパネルはカテゴリ表示された状態を指します。

「スタートボタン 「設定」 「コントロールパネル」	Windows 2000の「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「設定」を選択し、横に現れるサブメニューから「コントロールパネル」を選択する操作を指します。
【 』	【 』で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
『 』	『 』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版、またはMicrosoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows XP、 Windows XP Professional	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
Windows XP Home、 Windows XP Home Edition	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版
Windows 2000、 Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Office Personal 2003	Microsoft® Office Personal Edition 2003(Microsoft® Office Word 2003、Microsoft® Office Excel 2003、Microsoft® Office Outlook® 2003、Microsoft® Office Home Style+)
Office XP Personal	Microsoft® Office XP Personal(Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Outlook®、Microsoft Bookshelf® Basic 3.0、Microsoft Outlook Plus! 2.0)
Office XP Professional	Microsoft® Office XP Professional(Microsoft Word、Microsoft Excel、Microsoft Outlook®、Microsoft PowerPoint®、Microsoft Access、Microsoft Bookshelf® Basic 3.0)
IME 2003	Microsoft® IME 2003
MS-IME2002	Microsoft® IME 2002
MS-IME2000	Microsoft® IME 2000
WinDVD	InterVideo® WinDVD™ 4
RecordNow DX	Sonic RecordNow DX
DLA	Sonic DLA
StandbyDisk Solo	StandbyDisk Solo 日本語版

このマニュアルの記載順序

OSにより操作手順が異なる場合は、次の順序で記載しています。

Windows XP、Windows XP Home、Windows 2000

このマニュアルで使用しているイラスト

- このマニュアルで使用している本機のイラストは、MY10F/FE-Dです。
- このマニュアルに記載のイラストや画面は、実際のものとは多少異なることがあります。

デバイスマネージャの開き方

- Windows XPの場合

- 1** 「スタート」ボタン 「マイコンピュータ」をクリック
- 2** 「システムタスク」の「システム情報を表示する」をクリック
- 3** 「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリック
「デバイスマネージャ」が表示されます。

- Windows 2000の場合

- 1** 「スタート」ボタン 「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2** 「システム」をダブルクリック
- 3** 「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリック
「デバイスマネージャ」が表示されます。



当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。

対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

この装置には電気通信事業法第50条第1項の規定に基づき技術基準認証済みの通信機器が搭載されています。認証番号は次の通りです。

通信機器	認証番号
無線LAN(IEEE802.11a/b/g)	D03-0431JP

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。(社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

レーザ安全基準について

この装置には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、またはDVDマルチドライブが搭載されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたら、ご購入元、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindows XP、Windows XP Home、またはWindows 2000および本機に添付のCD-ROMは、本機のみでご使用ください。
- (7) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (8) ハードウェアの保守情報をセーブしています。
- (9) 本書に記載しているWebサイトや連絡先は、2003年10月現在のもので、

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC*1 will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.

NEC*1 does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.

Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1 : NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd.

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、OfficeロゴおよびWindowsのロゴ、Outlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
Intel、PentiumおよびCeleronは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標あるいは登録商標です。
McAfee、VirusScanは米国法人Network Associates, Inc.またはその関係会社の登録商標です。
Sonic RecordNowおよびSonic DLAは、米国Sonic Solutionsの登録商標です。
InterVideo、InterVideoロゴおよびWinDVDは、InterVideo, Inc.の商標または登録商標です。
Copyright 1999, 2003 InterVideo, Incorporated. All rights reserved.
StandbyDisk Soloは、StandbySoft LLC / (株)ネットジャパンの商標です。
StandbyDisk Solo RBは、StandbySoft LLC / (株)ネットジャパンの商標です。
Symantec、SymantecロゴおよびpcAnywhereはSymantec Corporationの登録商標であり、Symantec Corporationの各製品名はSymantec Corporationの登録商標または商標です。
©2003 Symantec Corporation. All rights reserved.
Photo CD portions copyright Eastman Kodak Company 1995
PS/2はIBM社が所有している商標です。
ESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation, NEC Personal Products, Ltd. 2003
日本電気株式会社、NECパーソナルプロダクツ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

このマニュアルの構成・読み方

このマニュアルはPART1からPART4までの構成となっていますが、PART1から順に読んでいく必要はありません。

『はじめにお読みください』でセットアップが完了しましたら、必要に応じてこのマニュアルを活用してください。

なお、各PARTの最初のページにも「この章の読み方」と「この章の内容」がありますので、各PARTを読む前にご覧ください。

また、このマニュアルは検索性を高めるため、目次の次に索引を記載しています。

索引に載せてある用語は、目次、注意していただきたい内容(☑チェック)、用語(用 語)、メモ(メモ)を検索するのに都合の良い言葉を選んでいきます。

目次

索引

PART1 本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明しています。

PART2 周辺機器を利用する

接続できる周辺機器の概要とメモリ、PCカードなどの周辺機器を増設する方法について説明しています。

PART3 システム設定

本機を使用環境にあわせて設定するための、BIOSセットアップメニューの使い方を説明しています。

別売の機器を利用するときにも、状況に応じて設定を変更できます。

PART4 付録

本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

はじめに	3
このマニュアルの表記について	4
ご注意	10
このマニュアルの構成・読み方	12
目次(このページです).....	13
索引	17
本体の構成各部	21
各部の名称	22
本体正面	22
本体右側面	25
本体左側面	26
本体背面	27
電源	30
電源の状態と操作方法	30
電源の入れ方/切り方(電源の手動操作).....	33
スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作).....	36
休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作).....	40
電源の自動操作	43
キーボード	45
添付されるキーボードの種類	45
使用上の注意	46
PS/2 109キーボード、USB109キーボード	47
テンキー付きPS/2小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード	49
日本語入力	51
USB接続のキーボードの使用上の注意	53
マウス	54
マウスについて	54
ディスプレイ	55
使用上の注意	55
表示能力	55
ディスプレイの省電力機能	56
ハードディスクドライブ	57
使用上の注意	57

ドライブ番号の割り当て(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合).....	59
ドライブ番号の割り当て(Windows 2000の場合).....	60
エラーチェックおよびスキャンディスクの操作手順.....	61
フロッピーディスクドライブ	63
使用上の注意.....	63
使用できるフロッピーディスク.....	63
フロッピーディスクの内容の保護.....	64
CD/DVDドライブ	65
CD/DVDドライブ使用上の注意.....	65
CD/DVDの機能.....	65
CD/DVDドライブの取り付け.....	65
再生できるCD/DVDの種類.....	66
CD-RおよびCD-RWへの書き込みとCD-RWのフォーマット.....	68
DVD-R、DVD-RWおよびDVD-RAMへの書き込みとDVD-RW およびDVD-RAMのフォーマット.....	69
非常時のディスクの取り出し.....	72
サウンド機能	73
音量の調節.....	73
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	74
LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続.....	74
LANの設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)....	75
LANの設定(Windows 2000の場合).....	76
リモートパワーオン機能の設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合).....	77
リモートパワーオン機能の設定(Windows 2000の場合).....	79
無線LAN機能	82
無線LAN使用上の注意.....	82
ワイヤレスLAN(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意.....	82
本機で設定できるセキュリティ.....	84
無線LAN製品との接続.....	85
無線LANの設定.....	85
USBコネクタ	86
USBコネクタに接続する.....	86
セキュリティ/マネジメント機能	90

セキュリティ/マネジメント機能の概要	90
セキュリティ機能	91
マネジメント機能	93
信頼性機能	95
周辺機器を利用する	97
接続できる周辺機器	98
接続にともなう注意点	99
接続前の確認	99
プラグ&プレイ セットアップについて	100
デバイスドライバの追加について	100
接続がうまくできない場合	101
リソースの競合が起これたら	102
本体カバー類の取り外し	105
LCDリアカバーの取り外し	105
LCDリアカバーの取り付け	107
増設RAMボード(メモリ)の取り外し/取り付け	109
取り付け前の確認	109
増設RAMボードの取り外し	110
増設RAMボードの取り付け	112
メモリ容量の確認方法	115
PCカードを利用する	116
PCカードスロットについて	116
使用上の注意	117
PCカードの取り付け	118
PCカードの取り外し	119
VersaBay IVbを利用する	122
VersaBay IVbで使用できる機器	122
VersaBay IVbの機器を交換する	123

システム設定	125
BIOSセットアップメニューについて	126
BIOSセットアップメニューの起動と初期画面	126
BIOSセットアップメニューの終了	128
工場出荷時の設定値に戻す	128
Startupの設定	130
Startupの設定	130
パスワードの解除	133
Componentsの設定	135
Componentsの設定	135
Powerの設定	138
Powerの設定	138

付 録	139
割り込みレベル・DMAチャンネル	140
本機のお手入れ	142
マウスのクリーニング	143

索引

英数字

100BASE-TX	74	Enable USB Port	136
109キーボード	47	Extended	128
10BASE-T	74	External FDD	127
1Gバイト	58	I/Oロック	92, 137
1Mバイト	58	IEC825	9
3.5インチフロッピーディスクドライブ	25	Internal FDC	135
AC電源コネクタ	29	Internal FDD	127
Audio Controller	137	Internal HDD	127
Base	128	Internal HDD Password	132
BIOS Version	127	JEITA	116
BIOSセットアップメニュー	126	JIS	9
Boot Device	130	Keyboard Numlock	137
Cache(Ext)	128	LAN	74
CD/DVDドライブ	23	LAN BIOS	130
CD-R	68	LANコネクタ	28
CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ	24	LANの設定	75, 76
CD-ROMアクセスランプ	24	Legacy USB	137
CD-RW	68	LPT Port	136
COM Ports	135	Master Password	132
CPU	127	MS-IME	51
CPU Speed	127	NEC 8番街	99
Date and Time	130	Nキーロールオーバー	46
DMAチャンネル	103, 104, 140	Office XP	5
DPMS	56	Parallel Port	127
DVDマルチアクセスランプ	24	Password On Boot	132
		PCMCIA	116
		PCカード	116

PCカードイジェクトボタン	26
PCカードスロット	26
PK-FP002M	91
Power Loss Resume	138
Product name	127
PS/2互換マウス	104
PS/2接続キーボードコネクタ	28
PS/2接続マウスコネクタ	27
README	102
Reserved	128
Resume On PME	138
Serial number	127
Serial Port 1	127
Set Admin password	131
Set User password	131
Shadow	128
Silent Boot	130
SpeedStep Support	138
Total RAM	128
USB2.0 Controller	137
USBケーブルフック	29
USBコネクタ	26, 29, 86
USBハブ	53
User Password	132
VCCI	9
VersaBay Drive	127
VersaBay HDD Password	133
VersaBay IVb	122
VersaBay IVbアンロック	29, 123
Windowsキー	47, 49

ア行

アプリケーションキー	48, 50
イラスト	7
ウイルス	92
ウィンドウアクセラレータ	55
エネルギースター	9, 43
エラーチェック	62
音量の調節	73

カ行

解像度	55
外部ディスプレイコネクタ	28
書き込み禁止	64
管理者パスワード	131, 132
キーボード	45
輝度調整ボタン	22
休止状態	40
筐体ロック	29, 92
ケーブルカバー	27
工場出荷時の設定値	128

サ行

サウンド機能	73
自己診断画面	130
周辺機器	98, 99
重要な情報	102
瞬時電圧低下	9
順序	109
省電力機能	56

シリアルコネクタ	28
信頼性機能	95
スキップセクタ	58
スクロールボタン	54
スタンバイ状態	30
セキュリティ機能	91
接続可否	99
接続前の確認	99
増設RAMボード	109

タ行

タイマ	43
通風孔	28
ディスクアクセスランプ	23
ディスクイジェクトボタン	25
ディスクトレイイジェクトボタン	24
ディスプレイ	55
デバイスドライバ	100
デバイスマネージャ	99
電源	30
電源スイッチ	23
電源ランプ	22
電波障害	9
盗難防止用ロック	28
ドライブ番号	59, 60
トラブル	102
取り付け順序	109

ナ行

内蔵スピーカ	25
--------	----

内臓ハードディスクへのパスワード	132
日本語入力	51
ネットワークブート機能	94

ハ行

ハードディスク	22
ハードディスクドライブ	57
ハードディスクパスワード	92
ハイパワーデバイス	53
ポケット	93
バックアップ	57
ハブ	74
パラレルコネクタ	28
光ディスクアクセスランプ	22
表示色	55
フォーマット	63
復帰	32
プラグ&プレイ	100
不良セクタ	58
フロッピーディスクドライブ	63
ヘッドフォン	25
ヘッドフォンボリューム	25
本機	5
本機のお手入れ	142
本体	5

マ行

マイク端子	25
マウス	54
マネジメント機能	93

マルチポートリピータ	74
無線LAN機能	82
メモリ	109
メモリスロットカバー	112

ヤ行

ユーザパスワード	131, 132
輸出	10

ラ行

ライトプロテクト	64
ライトプロテクトノッチ	64
ライン出力端子	25
ライン入力端子	25
リアカバーロックボタン	29
リソース	99
リソースの競合	102
リモートコントロール	94
リモートパワーオン機能	44, 93
リンクケーブルの接続	74
レーザー安全基準	9
ローパワーデバイス	53

ワ行

割り込みレベル	103, 104, 140
---------------	---------------

本体の構成各部

本機の外観上に見えるものから、内蔵されている機器まで、ハードウェア全般の機能と取り扱いについて説明します。

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

各部の名称	22
電源	30
キーボード	45
マウス	54
ディスプレイ	55
ハードディスクドライブ	57
フロッピーディスクドライブ	63
CD/DVDドライブ	65
サウンド機能	73
LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード	74
無線LAN機能	82
USBコネクタ	86
セキュリティ/マネジメント機能	90

各部の名称

ここでは、本体の各部の名称とその役割について説明しています。各部の取り扱い方法や詳しい操作方法については、各項目にある参照ページをご覧ください。

本体正面



輝度調整ボタン

液晶ディスプレイの輝度を調整するボタンです。左のボタンを押すと輝度が下がり、右のボタンを押すと輝度が上がります。

電源ランプ(ⓧ)

電源の状態を表示するランプです。電源が入っているときとスタンバイ状態のときに点灯します。「電源」(P.30)

ハードディスク/光ディスクアクセスランプ(ⓧ)

IDEデバイスが読み書きしているときに点灯します。

工場出荷時に内蔵されているIDEデバイスは、ハードディスクドライブ(プライマリマスタ)と、CD/DVDドライブ(セカンダリマスタ)があります。「ハードディスクドライブ」(P.57)、「CD/DVDドライブ」(P.65)

✓チェック!!

ハードディスク/光ディスクアクセスランプ点灯中は電源スイッチを押さないでください。ハードディスクの内容がこわれることがあります。

ディスクアクセスランプ

フロッピーディスクドライブが動作しているときに点灯します。

✓チェック!!

ディスクアクセスランプ点灯中は、電源スイッチを押したり、ディスクイジェクトボタンを押したりしてフロッピーディスクを取り出さないでください。ディスクの内容がこわれることがあります。

電源スイッチ(⏻)

本体の電源の状態を変更(入れる、スタンバイ/スタンバイからの復帰、休止状態/休止状態からの復帰)するスイッチです。「電源」(P.30)

CD/DVDドライブ、または空き

CD-ROMや音楽CDのデータを読み出す装置です。CDレスモデルの場合は搭載されていません。

さらにCD-R/RW with DVD-ROMドライブでは、CD-RまたはCD-RWにデータを書き込んだり、DVD-ROMのデータを読み出すことができます。さらにDVDマルチドライブでは、DVD-RAM、DVD-RまたはDVD-RWに大容量のデータを書き込むことができます。

「CD/DVDドライブ」(P.65)

本機は、別売のVersaBay IVb対応機器(セカンドハードディスク、CD/DVDドライブ)を利用できます。VersaBay IVbの取り付け/取り外しは簡単です。

別売のセカンドハードディスクをご利用になる場合は、工場出荷時に内蔵されているCD/DVDドライブと交換してください。

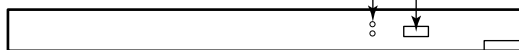
「PART2 周辺機器を利用する」VersaBay IVbを利用する (P.122)

CDレスモデルの場合、アプリケーションのインストールや再セットアップする際などCD-ROMを使用する場合には別売のVersaBay IVb対応のCD/DVDドライブが必要になります。

「PART2 周辺機器を利用する」VersaBay IVbを利用する (P.122)

CD/DVDドライブ拡大図

- a ディスクトレイジェクトボタン
- b CD-ROMアクセスランプ
- c CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ
- d DVDマルチアクセスランプ



-a ディスクトレイジェクトボタン

トレイを出し入れするときに使います。

-b CD-ROMアクセスランプ

CD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。

✓チェック!!

CD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因となります。

-c CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ

CD-R/RW with DVD-ROMドライブが動作しているときに点灯します。

✓チェック!!

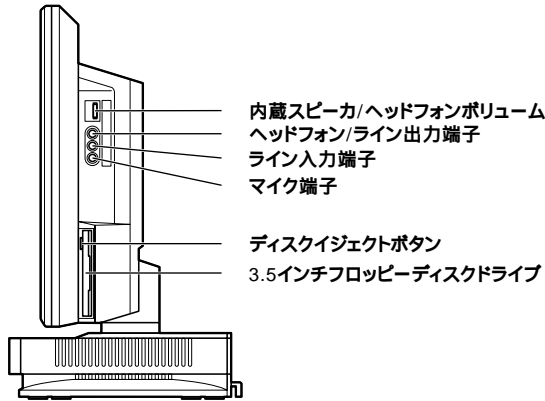
CD-R/RW with DVD-ROMアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。CD-RやCD-RWの内容がこわれたり、故障の原因になります。

-d DVDマルチアクセスランプ

DVDマルチドライブが動作しているときに点灯します。

✓チェック!!

DVDマルチアクセスランプ点灯中は電源スイッチやディスクトレイジェクトボタンを押さないでください。CD-R、CD-RW、DVD-RAM、DVD-RまたはDVD-RWの内容がこわれたり、故障の原因になります。



内蔵スピーカ/ヘッドフォンボリューム

内蔵スピーカ、またはヘッドフォン端子に接続したヘッドフォンの音量を調節します。下に動かすと音量が小さくなり、上に動かすと大きくなります。「サウンド機能」(P.73)

ヘッドフォン/ライン出力端子(☎➡)

ミニプラグのステレオヘッドフォンを接続します。また、市販のオーディオ機器などに音声信号を出力します。なお、ヘッドフォンを接続すると内蔵スピーカからの音は出なくなります。ヘッドフォンを耳にあてたままジャックの抜き差しをしないでください。

ライン入力端子(ミニジャック)(☎←)

市販のオーディオ機器から音声信号を入力します。

マイク端子(ミニジャック)(☎)

市販のマイクを接続します。

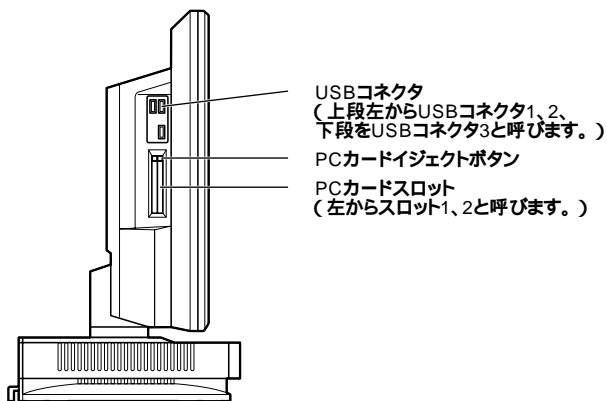
ディスクイジェクトボタン

フロッピーディスクを取り出します。

3.5インチフロッピーディスクドライブ

3.5インチのフロッピーディスクの読み書きをする装置です。
「フロッピーディスクドライブ」(P.63)

本体左側面



USBコネクタ(🔌)

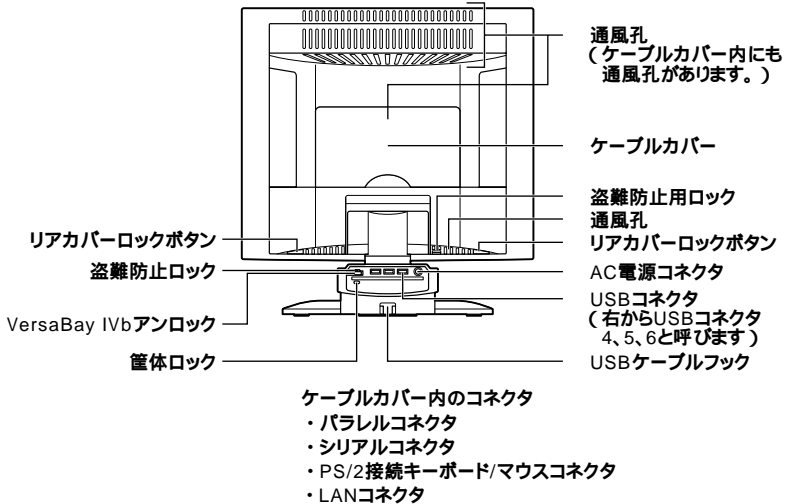
USB機器を接続します。USB2.0/1.1機器に対応しています。USB2.0の転送速度を出すためには、USB2.0対応の機器を接続する必要があります。
「キーボード」(P.45)

PCカードイジェクトボタン

PCカードを取り出すときに使います。

PCカードスロット(📄)

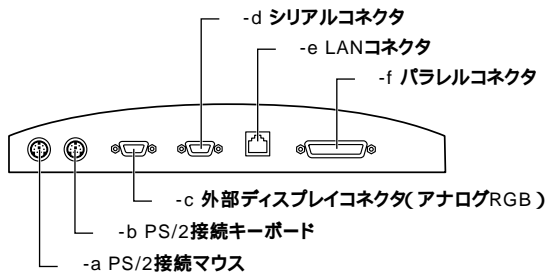
PCカードを接続します。
「PART2 周辺機器を接続する」PCカードを利用する (P.116)



ケーブルカバー

接続されたケーブル機器のインタフェース部分を保護します。ケーブルを束ねる役割もあります。

ケーブルカバー内部拡大図



-a PS/2接続マウスコネクタ(🖱)

PS/2 109キーボードのモデルでは、PS/2接続のマウス(ミニDIN6ピン)を接続します。テンキー付きPS/2小型キーボードのモデルでは、キーボードのケーブルがキーボード用とマウス用に分岐しているので、マウス用のケーブルを接続します。なお、PS/2接続のマウスはキーボードに接続します。「マウス」(P.54)

-b PS/2接続キーボードコネクタ()


PS/2接続のキーボードのモデルでは、PS/2接続のキーボード(ミニDIN6ピン)を接続します。「キーボード」(P.45)

-c 外部ディスプレイコネクタ(アナログRGB) ()

別売のディスプレイのアナログインタフェースに接続します。

-d シリアルコネクタ()

モデムやISDN TAなどの機器を接続します。

 **チェック!!**

シリアルコネクタでは、変換アダプタを利用した周辺機器の接続はできません。


-e LANコネクタ()

本機にはLANボードが内蔵されていますので、LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することができます。

「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」(P.74)

-f パラレルコネクタ()

プリンタなどの機器を接続します。

 **チェック!!**

パラレルコネクタでは、変換アダプタを利用した周辺機器の接続はできません。

盗難防止用ロック

本体に内蔵されているメモリや機器の盗難を防止します。

「セキュリティ/マネジメント機能」(P.90)

通風孔

本体内部の熱を逃すための穴です。ケーブルカバーの内側にもあります。

リアカバーロックボタン

LCDリアカバーを固定します。

参照

LCDリアカバーの取り付け/取り外しの方法については、「PART2 周辺機器
を利用する」『本体カバー類の取り外し』(P.105)をご覧ください。

AC電源コネクタ()

ACコンセントから本体に100Vの電源を供給するためのコネクタです。
添付のACアダプタを接続します。

USBコネクタ()

USB機器を接続します。USB2.0/1.1機器に対応しています。USB2.0の転
送速度を出すためには、USB2.0対応の機器を接続する必要があります。

「USBコネクタ」(P.86)

USBケーブルフック

USB機器のケーブルが抜けるのを防止します。

VersaBay IVbアンロック

VersaBay IVbに内蔵されている機器を取り出すためのボタンです。筐体
ロックと共用することで、本体およびVersaBay IVbに内蔵されている機
器の盗難を防止します。「セキュリティ/マネジメント機能」(P.90)。
「PART2 周辺機器を利用する」VersaBay IVbを利用する」(P.122)

筐体ロック(K)

ロック付き盗難防止ケーブルを取り付けます。

「セキュリティ/マネジメント機能」(P.90)

電源

ここでは電源の入れ方と切り方や省電力機能について説明します。電源の切り方を間違えるとデータやプログラム、本機がこわれてしまうことがあるので、特に注意してください。

電源の状態と操作方法

電源の状態

本体の電源の状態には次のように「電源が切れている状態」「電源が入っている状態」「スタンバイ状態」「休止状態」の4つの状態があります。



電源が切れている状態

Windowsを終了するなどして本体を使用していない状態です。

電源が入っている状態

通常、本体を使用している状態です。

スタンバイ状態

作業中のデータを一時的にメモリへ保存し、ハードディスクドライブなどのモータを停止する、ディスプレイを省電力の状態にするなどして消費電力を抑えますが、メモリ内のデータを保持するための電力は供給されている状態です。作業中の内容がメモリ内に保存されているため、スタンバイ状態から復帰するときは素早く元の状態に戻ります。

休止状態

メモリの情報をすべてハードディスクドライブに保存した後で、本体の電源を切ります。もう一度電源を入れると、電源を切ったときと同じ状態で復元されます。本体の電源を切るため、「休止状態からの復帰」は「スタンバイからの復帰」より遅くなります。

電源の状態によるランプとディスプレイの表示は、次の通りです。

電源の状態	電源ランプ	ディスプレイの表示
電源が入っている	緑色に点灯	表示される
電源が切れている	点灯しない	表示されない
スタンバイ状態	オレンジ色に点灯	表示されない
休止状態	点灯しない	表示されない

電源の操作方法

電源を操作するには次の方法があります。詳しくは、後述の電源についての記載をご覧ください。

電源を入れる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

電源を切る

電源の操作方法
Windows XP、Windows XP Homeの場合 終了メニューから「終了オプション」ボタンをクリックし、「電源を切る」ボタンをクリック
Windows 2000の場合 終了メニューから「シャットダウン」を選択し、「OK」ボタンをクリック
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

スタンバイ状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows XP、Windows XP Homeの場合 終了メニューから「終了オプション」ボタンをクリックし、「スタンバイ」ボタンをクリック
Windows 2000の場合 終了メニューから「スタンバイ」を選択し、「OK」ボタンをクリック
Windows XP、Windows XP Homeの場合 「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」の「電源設定」で設定する
Windows 2000の場合 「コントロールパネル」「電源オプション」の「詳細」で設定する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

スタンバイ状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
マウスを動かす。またはキーボードのキーを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

USB接続のマウス、キーボード使用の場合のみ

休止状態にする

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Windows XP、Windows XP Homeの場合 ・終了メニューから「終了オプション」ボタンをクリックし、【SHIFT】を押しながら「休止状態」ボタンをクリック ・「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」の「電源設定」で設定する
Windows 2000の場合 ・終了メニューから「休止状態」を選択し、「OK」ボタンをクリック ・「コントロールパネル」「電源オプション」の「詳細」で設定する
LANによるリモートパワーオフ機能を利用する

休止状態から復帰させる

電源の操作方法
電源スイッチを押す
Timer-NXを利用する
LANによるリモートパワーオン機能を利用する

電源の入れ方/切り方(電源の手動操作)**電源を入れる**

電源が切れている状態から電源を入れるには、必ず次の手順に従って正しく電源を入れてください。

✓チェック!!

電源を入れる場合は、電源を切ってから5秒以上間隔をあけてから行ってください。ただし、電源を切ってから、電源ケーブルを抜いたり、ブレーカー等で供給元の電源を切った場合は、30秒以上間隔をあけてから、電源を入れてください。

- 1 フロッピーディスクドライブに何もセットされていないことを確認する
- 2 周辺機器の電源を入れる
- 3 本体の電源スイッチを押す

✓チェック!!

メモリを増設した場合、初期化のため、電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの組み合わせによって変わってきます。256MBのメモリを1枚実装した場合、約3秒かかります。

電源を切る

電源が入っている状態から電源を切るには、次の手順に従って電源を切ってください。

✓ チェック!!

電源投入後、Windowsの起動中やアプリケーションの起動中には、電源を切らないでください。マウスポインタが、砂時計表示されていないこと、およびハードディスクアクセスランプやディスクアクセスランプが点灯していないことを確認してから電源を切るようにしてください。

Windows XP、Windows XP Homeの場合

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
- 2 「スタート」ボタン 「終了オプション」ボタンをクリック
- 3 「電源を切る」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。
- 4 本体の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る

✓ チェック!!

Windows XPまたはWindows XP Homeの動作中は、電源スイッチを押して電源を切らないでください。ソフトウェアなどのエラーで、Windows XPまたはWindows XP Homeが操作できなくなった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A「電源を切ろうとしたが…」をご覧ください。

メモ

「電源オプション」では次の設定が行えます。


- ・ 電源スイッチの変更(スリープ、休止状態、シャットダウン)
- ・ 電源の自動操作(システムスタンバイ、システム休止状態)

参照

「電源オプション」の設定の変更 Windows XPのヘルプ

Windows 2000の場合

- 1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する
- 2 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 3 「シャットダウン」を選択して「OK」ボタンをクリック
本体の電源はソフトウェアによって自動的に切れますので、終了処理中に電源スイッチを押さないでください。
- 4 本体の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る

 **チェック!!**

Windows 2000の動作中は、電源スイッチを押して電源を切らないでください。ソフトウェアなどのエラーで、Windows 2000が操作できなくなってしまった場合は、『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A「電源を切ろうとしたが・・・」をご覧ください。

 **メモ**

「電源オプション」では次の設定が行えます。

- ・ 電源スイッチの変更(スタンバイ、休止状態、電源オフ)
- ・ 電源の自動操作(システムスタンバイ、システム休止状態)

 **参照** 「電源オプション」の設定の変更 Windows 2000のヘルプ

スタンバイ/スタンバイからの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を一時中断する場合は、スタンバイ状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによってスタンバイ状態にするには、「電源オプション」または、「電源の管理」の設定を変更する必要があります。

参照 「電源オプション」または、「電源の管理」の設定の変更 Windowsのヘルプ

✓チェック!!

スタンバイ/スタンバイ状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

スタンバイ状態にする

電源が入っている状態から手動でスタンバイ状態にするには、次の方法があります。

✓チェック!!

リモートパワーオン機能を使用するため、「デバイスマネージャ」のネットワークアダプタのプロパティで、「電源の管理」タブにおいて「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」をチェックした場合、ネットワーク状態を最新の状態に更新するため不定期にスタンバイ状態が解除される場合があります。

「スタート」ボタンによる方法

Windows XP、Windows XP Homeの場合

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」ボタンをクリック
- 2 「スタンバイ」をクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

Windows 2000の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 2 「スタンバイ」を選択して「OK」ボタンをクリック
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
電源ランプがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

✓チェック!!

電源スイッチを押してスタンバイ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から手で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。なお、本機をキーボード/マウスによってスタンバイ状態から復帰するには、キーボード/マウスのプロパティの「電源の管理」タブにある「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」がチェックされている必要があります。

✓チェック!!

XP XP Home

USB接続のキーボード/マウスのモデルで「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」がチェックされている場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。

参照 ▶ 「キーボード」または「マウス」の設定の変更 Windowsのヘルプ

入力デバイスによる方法

✓チェック!!

入力デバイスによるスタンバイ状態からの復帰は、USB接続のキーボード/マウスで可能です。PS/2接続のキーボード/マウスでは復帰できません。

- 1 マウスを動かすか、キーボードのキーを押す
電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

電源スイッチによる方法

1 電源スイッチを押す

電源ランプがオレンジ色から緑色に変わり、スタンバイ状態から復帰します。

チェック!!

電源スイッチを押してスタンバイ状態から復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

スタンバイ機能を使用するときの注意

スタンバイ機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと、スタンバイ状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

スタンバイ状態にする前の内容が失われるとき

スタンバイ状態のときに次のことが起きると、スタンバイ状態にするときの作業中のデータは失われます。

- ・ 電源ケーブルが本体やACコンセントから外れたとき
- ・ 停電が起きたとき
- ・ 電源スイッチを約4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ったとき

スタンバイ状態からの復帰が保証されないとき

スタンバイ状態からの復帰中にフロッピーディスクやCD-ROMなどを取り出したり、交換すると、スタンバイ状態にしたときの作業中のデータは保証されません。

また、次のような状態でスタンバイ状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ 作業中のデータを保存中のとき
- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき
- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・ スタンバイ機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- ・ Windowsの起動処理中、終了処理中のとき

- ・ 通信用ソフトウェアでLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

その他の注意

- ・ 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、スタンバイ状態にしてください。通信状態のままスタンバイ状態にすると、回線が接続されたままになり、電話料金が加算される場合があります。
- ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときにスタンバイ状態にした場合は、復帰するときに多少の時間がかかることがあります。
- ・ CDの再生中にスタンバイ状態にした場合、CDは再生され続ける場合があります。スタンバイ状態にする前にCDの再生を止めてください。
- ・ SCSI PCカードを使用している場合、接続されている機器によっては正しくスタンバイ状態から復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態にしないでください。
なお、ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。
- ・ スタンバイ状態からの復帰の操作を行ってもディスプレイには何も表示されないことがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すとディスプレイが表示されます。
- 2000 ・ スタンバイ状態から復帰させた場合、USB接続機器(キーボード、マウス、プリンタ等)が動作しないことがあります。この場合は一度、USB機器を抜き差ししてください。また、印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。なお、ドキュメントのキャンセルに、時間がかかる場合があります。

スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法
次のような場合には、スタンバイ状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ スタンバイ状態にする前の内容を復元できない
- ・ USB接続のマウス、またはキーボード、電源スイッチを押してもスタンバイ状態から復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、スタンバイ機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。この場合、BIOSセットアップメニューの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

休止状態/休止状態からの復帰(電源の手動操作)

本機での作業を長時間中断する場合は、休止状態にすることによって電力の消費を節約することができます。なお、本機を電源スイッチによって休止状態にするには、「電源オプション」または「電源の管理」の設定を変更する必要があります。

参照 ▶ 「電源オプション」または、「電源の管理」の設定の変更 Windowsのヘルプ

✓ チェック!!

休止状態/休止状態から復帰する操作は、電源ランプの色が変わってから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

休止状態にする

電源が入っている状態から手動で休止状態にするには、次の方法があります。

「スタート」ボタンによる方法

Windows XP、Windows XP Homeの場合

- 1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリック
- 2 【SHIFT】を押しながら、「休止状態」ボタンをクリック
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

Windows 2000の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」をクリック
- 2 「休止状態」を選択して「OK」ボタンをクリック
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

電源スイッチによる方法

- 1 電源スイッチを押す
作業状態をハードディスクドライブに保存し、本機の電源が切れ、休止状態になります。

チェック!!

電源スイッチを押して休止状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れ、保存していないデータは失われてしまいます。

休止状態から復帰する

休止状態から手で電源が入っている状態に復帰するには、次の手順があります。

- 1 電源スイッチを押す
Windowsが起動し、前回休止状態機能を使用して電源を切ったときと同じ状態に復元されます。

休止状態機能を使用するときの注意

休止状態機能を使用するときには、次のような注意が必要です。これを守っていただけないと休止状態にするときの作業中のデータが失われたり、元通りに復帰できないこともあります。

休止状態からの復帰が保証されないとき

休止状態にするときの作業中のデータを保存中のとき、または休止状態からの復帰中に次のようなことを行うと、休止状態にするときの作業中のデータは保証されません。

- ・ フロッピーディスクやCD-ROMを取り出したり、交換したとき
- ・ PCカードの抜き差しをするなど、本機の環境や構成を変更したとき
- ・ 周辺機器の構成を変更(取り付け/取り外し)したとき

また、次のような状態で休止状態にすると、作業中のデータは保証されません。

- ・ システム変更作業(ドライバの設定やプリンタの追加)中のとき
- ・ プリンタへ出力中のとき
- ・ 音声または動画を再生しているとき
- ・ フロッピーディスク、ハードディスクを読み書き中のとき

- ・ CD-ROMなどを読み取り中のとき
- ・ 休止状態機能に対応していないアプリケーションを使用中のとき
- ・ 休止状態機能に対応していない周辺機器や拡張ボードを使用中のとき
- ・ Windowsの起動処理中、終了処理中のとき
- ・ 通信用ソフトウェアでLANなどを使ってネットワークに接続しているとき

その他の注意

- ・ 通信アプリケーションを使用中の場合は、通信アプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
 - ・ CD-ROMドライブにフォトCDが入っているときに休止状態にした場合は、復帰するまでに多少の時間がかかることがあります。
 - ・ 休止状態からの復帰の操作を行っても、ディスプレイに何も表示されないことがあります。この場合は、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。
 - ・ SCSI PCカードを使用している場合、接続されている機器によっては正しく休止状態から復帰できない場合があります。このような場合は、休止状態にしないでください。
- 2000
- ・ 休止状態から復帰させた場合、USB接続機器(キーボード、マウス、プリンタ等)が動作しないことがあります。この場合は一度USB機器を抜き差ししてください。また、印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。
なお、ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。

休止状態からの復帰が正しく実行されないときの解決方法

次のような場合には、休止状態からの復帰が正しく実行されなかったことを表しています。

- ・ アプリケーションが動作しない
- ・ 休止状態にする前の内容に復帰できない
- ・ 電源スイッチを押しても休止状態から復帰できない

このような状態になるアプリケーションを使用中には、休止状態機能は使わないでください。万一、電源スイッチを押しても復帰できなかったときには、電源スイッチを約4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップメニューの内容が工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は、再設定してください。

電源の自動操作

タイマ(「電源オプション」または、「電源の管理」Timer-NX)、LAN、回線からのアクセス(リモートパワーオン機能)によって、自動的に電源の操作を行うことができます。

✓チェック!!

タイマ、LANの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイから復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、マウスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

「電源オプション」、「電源の管理」

メモ

本機はエネルギースターに対応していますので、省エネルギーのため工場出荷時にスタンバイ状態になるように設定してあります。

「電源オプション」の「システムスタンバイ」または「システム休止状態」を設定しておく、設定した時間を経過しても、マウスやキーボードからの入力およびハードディスクドライブへのアクセスなどが無い場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態、または休止状態にすることができます。

Windows XP、Windows XP Homeの場合

「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」をクリック

Windows 2000の場合

「コントロールパネル」 「電源オプション」をダブルクリック

「電源オプション」 の設定	モニタの 電源を切る	ハードディスク の電源を切る	システム スタンバイ	システム 休止状態
本体				
工場出荷時の設定値	約20分	約30分	約20分	なし

約30分で切れるように設定されていますが、約20分後にはスタンバイ状態に移行して、ハードディスクドライブの電源が切れます。

参照 ▶ 「電源オプション」の設定の変更 Windowsのヘルプ

Timer-NX

「Timer-NX」のタイマ機能およびオフタイマ機能を使って、指定した時刻に電源を切る、またはスタンバイ状態/休止状態から復帰することができます。

参照 ▶ 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加
「Timer-NX」Timer-NXのヘルプ

リモートパワーオン機能(LANによる電源の自動操作)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。

- 参照** ▶
- ・「セキュリティ/マネジメント機能」マネジメント機能「リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)」(P.93)
 - ・「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」リモートパワーオン機能の設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)(P.77)
 - ・「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」リモートパワーオン機能の設定(Windows 2000の場合)(P.79)

キーボード

ここでは、さまざまなキーボード、日本語入力、キーボードの使用上の注意について説明します。

参照 → キーボード Windowsのヘルプ

添付されるキーボードの種類

本機に添付されるキーボードには、接続するインタフェース、キー配列、収納方法などの違いにより、次の種類のキーボードがあります。

キーボードの種類・名称		インタフェース	キー配列	収納方法
PS/2 接続 のキーボード	PS/2 109キーボード	PS/2	109配列	横置き
	テンキー付きPS/2小型キーボード		109準拠	縦置き
USB接続の キーボード	USB 109キーボード	USB	109配列	横置き
	テンキー付きUSB小型キーボード		109準拠	縦置き

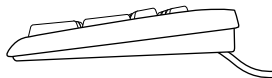
収納方法

本機に添付されるキーボードには、キーボードを使わないときの収納方法として、縦置き収納型と横置き収納型の2つがあります。

縦置き収納型



横置き収納型



縦置き収納型は、キーボードを使わないときに、キーボードを縦置きにすることができるタイプ(スタンドタイプ)で、机上のスペースを広くすることができます。横置き収納型は、キーボードを使わないときも、横置きのままのタイプです。

使用上の注意

Nキーロールオーバー

Nキーロールオーバーとは、複数のキーを同時に押した場合に、最後に入力したキーが有効になる機能です。ただし、本機のキーボードは、疑似Nキーロールオーバーのため、複数のキーを同時に押した場合には、正常に表示されないことや、有効にならないことがあります。

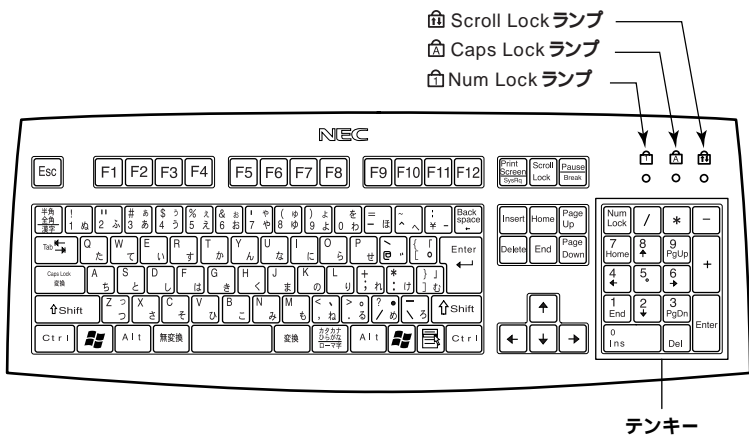
USB接続のキーボードの抜き差し













電源が入った状態でUSB接続のキーボードを抜き差しする場合、USB接続のキーボードが取り外されたことや取り付けられたことを、本体が認識するためには数秒～10秒程度必要です。瞬間的な抜き差しを繰り返すとキーボード入力ができなくなることがあります。

















キーボード入力ができなくなってしまった場合は、USB接続のキーボードを正しく接続した後に、電源スイッチを4秒以上押し続けて強制的に電源を切り、Windowsを再起動してください。

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



-  : エスケープキー
-  ~  : ファンクションキー
-  : プリントスクリーンキー
-  : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lock ランプが点灯します。「キーをロックする (P.48)」
-  : キャブスロック/英数キー
【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャブスロックし、Caps Lock ランプが点灯します。「キーをロックする (P.48)」
-  : シフトキー
-  : コントロールキー
-  : Windowsキー
-  : ポーズ/ブレイクキー
-  : 半角/全角/漢字キー
-  : タブキー

-  : アプリケーション キー
WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。
-  : オルトキー
-  : 無変換キー
-  : スペースキー
-  : 変換 キー
-  : カタカナひらがな/ローマ字キー
-  : エンターキー
-  : バックスペースキー
-  : インサートキー
-  : デリートキー
-  : ホームキー
-  : エンドキー
-  : ページアップキー
-  : ページダウンキー
-  : カーソル移動キー
-  : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。「キーをロックする」

キーをロックする

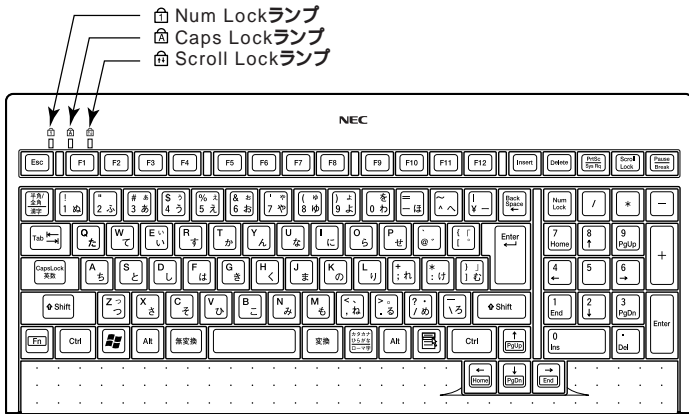
【Caps Lock】【Num Lock】【Scroll Lock】は、ロックされているときと、ロックされていないときでキーの機能が異なります。それぞれのキーがロックされているときはキーボード上部のランプが点灯します。













	ロックされているとき	ロックされていないとき
【Caps Lock】	英字が大文字で入力されます。	英字が小文字で入力されます。
【Num Lock】	キー前面に表示されている数字や記号が入力されます。	キー上面の文字が入力されます。
【Scroll Lock】	アプリケーションによって機能が異なります。	


テンキー付きPS/2小型キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード

キーの名称

キーボード上には、文字を入力するキーの他に、ソフトウェアの操作に使う特殊なキーがあります。これらのキーの機能は使用するソフトウェアによって異なります。



-  : エスケープキー
-  ~  : ファンクションキー
-  : プリントスクリーンキー
-  : スクロールロックキー
一度押すと、Scroll Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.48)
-  : ポーズ/ブレイクキー
-  : 半角/全角/漢字キー
-  : タブキー
-  : キャプスロック/英数キー
【Shift】を押しながら【Caps Lock/英数】を押すとキャプスロックし、Caps Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.48)
-  : シフトキー
-  : コントロールキー
-  : Windowsキー


 : アプリケーション キー
WindowsキーとアプリケーションキーはWindowsによって機能を割り当てることができます。

 : オルトキー

 : 無変換キー

 : スペースキー

 : 変換キー

 : カタカナひらがな/ローマ字キー

 : エンターキー

 : バックスペースキー

 : インサートキー


 : デリートキー


 : ホームキー


 : エンドキー

 : ページアップキー

 : ページダウンキー

 : カーソル移動キー

 : ニューメリックロックキー
一度押すとニューメリックロックし、Num Lockランプが点灯します。「キーをロックする」(P.48)

 : Fnキー 【Fn】を押しながらカーソル移動キーを押すと、【Page Up】【Page Down】【End】【Home】にすることができます。

キーをロックする

キーのロックについては、「キーをロックする」(P.48)をご覧ください。

日本語入力

漢字やひらがななどの日本語を入力するには、日本語入力プログラムを使います。本機では各モデルごとに以下の日本語入力プログラムが使用できます。

Windows XPおよびWindows XP Homeの場合

日本語入力プログラム	アプリケーションレスモデル	Office XP モデル	Office 2003 モデル
MS-IME2002			
IME 2003			

：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

：インストールされている日本語入力プログラム

Windows 2000の場合


日本語入力プログラム	アプリケーションレスモデル	Office XPモデル
MS-IME2000		
MS-IME2002		

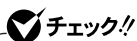
：インストールされており、工場出荷時に標準で使用する設定になっている日本語入力プログラム

：インストールされている日本語入力プログラム

日本語入力のオン/オフ

日本語入力のオン/オフを切り替えるには次の方法があります。

- ・ キーボードの【半角/全角/漢字】を押す
- ・ タスクバーの右下のをクリックし、表示されるメニューから選択する



MS-IME 2002、またはIME 2003をお使いの場合、は表示されません。

日本語変換の手順

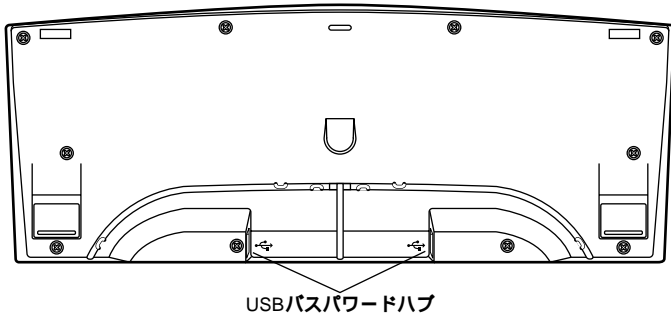
日本語の変換にはさまざまな方法があります。詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。



日本語変換のヘルプを表示するには、ツールバーのヘルプアイコンをクリックしてください。

USB接続のキーボードの使用上の注意

USB接続のキーボード(USB 109キーボード、テンキー付きUSB小型キーボード)の裏面には、USB機器を接続するためのハブが装備されています。1つは標準添付のスクロールボタン付きマウスを接続してください。ハブを2つ装備しているキーボードの残りの1つには別売のUSB機器を接続できますが、次の制限があります。



電源容量による接続の制限

- USB接続のキーボードのUSBハブは、USBバスパワーハブと呼ばれるハブで、電源が接続先から供給されて動作するハブです。
USB機器には、接続先に要求する電源の容量によって、「ハイパワーデバイス」と「ローパワーデバイス」の2種類に分類されます。USB接続のキーボードに接続できるUSB機器は「ローパワーデバイス」のものに限られます。

ⓧ Ⓜ ハイパワーデバイス、ローパワーデバイス

ハイパワーデバイス: 接続先に500mA以下の電源を要求するUSB機器。
ローパワーデバイス: 接続先に100mA以下の電源を要求するUSB機器。

- USBの仕様では、USB機器は最大5段まで縦列接続が可能ですが、実際のシステム運用上では2段までの縦列接続でご使用になってください。
- 本ハブにUSB2.0対応機器を接続すると、USB転送速度が最大12Mbpsに制限されます。

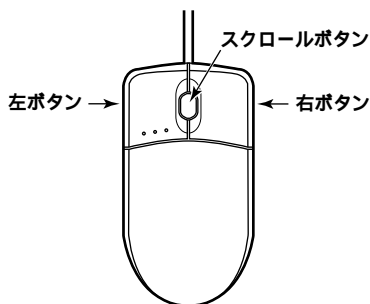
マウス

ここでは、マウスの使用方法について説明します。

参照 ▶ マウス Windowsのヘルプ

マウスについて

本機に添付されるマウスは、スクロールボタン付きマウスです。



マウスのクリックとは、マウスのボタンを押して離す操作です。特に指定がない場合は左ボタンを使います。

スクロールボタン付きマウスのスクロールボタンの使い方

通常はスクロールボタンを上押し続けたり、手前へ引き続けることで上下にスクロールします。

また、スクロールボタンをクリックしたり、押し続けたときにスクロールアイコンが表示されます。その場合は、三角マークの方向にマウスを動かすと画面を上下にスクロールさせることができます。スクロールボタンを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

✓チェック!!

スクロールボタンはアプリケーションによっては使用できない場合があります。

ディスプレイ

本機には、ウィンドウアクセラレータ機能が標準で搭載されています。お使用の用途に応じた解像度や表示色に切り換えて使用できます。

参照 ▶ ディスプレイ Windowsのヘルプ

使用上の注意

リフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定値はセットアップが完了したときに、最も適した値に自動的に設定されます。通常ご使用になるときは設定を変更しないでください。機種によってはリフレッシュレート(垂直走査周波数)の設定を「画面のプロパティ」で変更できる場合がありますが、ディスプレイがサポートしていないリフレッシュレートを設定すると画面が乱れることがあります。

表示能力

本機では、表示する解像度と表示色は、以下の水平走査周波数・垂直走査周波数で表示可能となります。

解像度 [ドット]	表示色	水平走査 周波数 [KHz]	垂直走査 周波数 [Hz]	本体の 液晶 ディスプレイ
640×480 1	256色 1 65,536色 1,677万色	31.5	60	
800×600	256色 1 65,536色 1,677万色	37.9	60	
1,024×768	256色 1 65,536色 1,677万色	48.4	60	
1,280×1,024 2	256色 1 65,536色 1,677万色	64.0	60	

- 1 Windows XPでは640×480および256色の表示には設定の変更が必要
- 2 MY10F/FE-Dのみ表示可能

ディスプレイの省電力機能

本機は、VESA(Video Electronics Standards Association)で定義されているディスプレイの省電力モード(DPMS:Display Management System)に対応しています。

工場出荷時の設定は、マウスやキーボードからの入力がない状態が続くと、約20分でディスプレイの電源を省電力モードにするように設定されています。

 参照 ▶ ディスプレイの省電力機能 Windowsのヘルプ

チェック!!

「電源の管理のプロパティ」の「モニタの電源を切る」と「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブの「スクリーンセーバー」の「待ち時間」に同じ時間を設定しないでください。

メモ

本機はエネルギースターに対応していますので、省エネルギーのため工場出荷時にスタンバイ状態になるように設定してあります。

ハードディスクドライブ

ハードディスクドライブは、プログラムやデータを保存する非常に精密な装置です。振動や衝撃などが加わらないよう、取り扱いにご注意ください。コンピュータの使用中に、ハードディスクドライブで障害が発生することもあります。軽い障害であればエラーチェックプログラムを使って修復できる場合があります。また、大切なデータを保護するため、定期的にデータのバックアップをとるようおすすめします。

使用上の注意

バックアップはこまめにとる

本機に内蔵されているハードディスクドライブは、非常に精密に作られています。毎分数千回転するディスク面と情報を読み取る磁気ヘッドの間は、わずかしき空いていません。このため、データを読み書きしていることを示すハードディスクアクセスランプの点灯中には、少しの衝撃を与えても故障の原因となることがあります。

また、温度、湿度条件を守れない環境での使用が続いた場合は、ハードディスクドライブ内部で使用している部品から極微量なガスが発生します。このガスは、磁気ヘッドに付着したり、二次的にマイクロダストを発生し、磁気ヘッドの姿勢を乱すなど故障の原因となることがあります。ハードディスクドライブが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまい、復帰できない可能性があります。二度と同じものを作れないような大切なデータは、バックアップをこまめにとることをおすすめします。本機にはハードディスクをバックアップするアプリケーション「Masty Data Backup」が添付されています。

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」

アプリケーションで作成したデータは、アプリケーションによっては自動的に保存場所が決められている場合がありますので、バックアップをとる場合はアプリケーションのマニュアルをご覧ください。

その他にも本機にはハードディスクドライブをバックアップする次のアプリケーションが添付されています。

XP 2000

StandbyDisk Solo

ハードディスクドライブ内のパーティションのバックアップ、および障害時の復元

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo」

StandbyDisk Solo RB

ハードディスクドライブ内のパーティションのバックアップ、および障害時における原因部分の絞り込み

参照

『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo RB」

不良セクタ、スキップセクタ

ハードディスクは、きわめて精密に製造されますが、データが高密度で記録されるため、読み出しエラーの起こりやすい場所ができることがあります。これを「不良セクタ」または「スキップセクタ」といいます。パソコンは、このような場所にはデータを記録しないようにしています。

ハードディスクに対して、エラーチェックを実行すると、「不良セクタ」または「スキップセクタ」と表示されることがありますが、これは、不良セクタ、スキップセクタを使わないように予防されていたことを表しており、異常ではありません。なお、「不良セクタ」または「スキップセクタ」が表示された場合でも、「全ディスク領域」または「全ディスク容量」のバイト数が次の表の値であれば不良ではありませんので、正常にお使いいただけます。

内蔵ハードディスク	正常値
80Gバイト	80,000,000,000バイト以上
120Gバイト	120,000,000,000バイト以上

表の正常値は、領域を分割しない場合の値です。

メモ

ハードディスクの記憶容量は、1Mバイト=1,000,000バイト、1Gバイト=1,000,000,000バイトで計算したときのM、Gバイト値を示してあります。OSによっては、1Mバイト=1,048,576バイトでMバイト値を、1Gバイト=1,073,741,824バイトでGバイト値を計算していますので、この値よりも小さな値で表示されます。

ハードディスクドライブの動作音について

ハードディスクドライブの動作中、本体から小さな音がする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブ番号の割り当て (Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」または「ドライブ文字」といいます。

工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

なお、領域を変更する場合は、システム管理者などディスクの管理に詳しいユーザの元で行ってください。

参照 ▶ ディスクの管理 Windowsのヘルプ

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、20GB、NTFS)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Eドライブ 1	CD/DVDドライブ(セカンダリマスタ)

1 CDレスモデルの場合は割り当てられていません。

ドライブ番号の割り当て(Windows 2000の場合)

ハードディスクドライブやフロッピーディスクドライブには、それぞれ呼び名が割り当てられています。これを「ドライブ番号」または「ドライブ文字」といいます。

工場出荷時に割り当てられているドライブ番号は次の通りです。

なお、領域を変更する場合は、システム管理者などディスクの管理に詳しいユーザの元で行ってください。

✓チェック!!

「ディスクの管理」ではドライブ番号の割り当てられていない領域が存在しますが、不用意に削除しないでください。これは再セットアップする場合に必要な「再セットアップ領域」であるため、ドライブ番号を割り当てていません。この領域の削除方法については、『活用ガイド 再セットアップ編』PART2 付録をご覧ください。

参照 ▶ ディスクの管理 Windowsのヘルプ

ドライブ番号	ドライブの種類
Aドライブ	フロッピーディスクドライブ
Cドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第1パーティション、20GB、FAT32)
Dドライブ	ハードディスクドライブ (プライマリマスタ、第2パーティション、残りすべての領域、NTFS)
Eドライブ 1	CD/DVDドライブ(セカンダリマスタ)

1 CDレスモデルの場合は割り当てられていません。

エラーチェックおよびスキャンディスクの操作手順

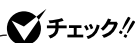
Windows XPおよびWindows XP Homeの場合

- 1 「スタート」ボタン 「マイコンピュータ」をクリック
- 2 エラーチェックするハードディスクのアイコンをクリック
- 3 「ファイル」「プロパティ」をクリック
- 4 「ツール」タブをクリック
- 5 「チェックする」ボタンをクリック
- 6 「チェックディスクオプション」を選択する



「ファイルシステムエラーチェックを自動的に修復する」にチェックを付けると、ディスクチェック中に発見したエラーを自動的に修復します。「不良セクタをスキャンし、回復する」にチェックを付けると、ディスクの表面検査を行い、不良セクタを検出したときは使用しないようにします。

- 7 「開始」ボタンをクリック



定期的エラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

- 1 デスクトップの「マイコンピュータ」をダブルクリック
- 2 エラーチェックするハードディスクのアイコンをクリック
- 3 「ファイル」「プロパティ」をクリック
- 4 「ツール」タブをクリック
- 5 「チェックする」ボタンをクリック
- 6 「チェックディスクのオプション」を選択する

メモ

「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」にチェックを付けると、ディスクチェック中に発見したエラーを自動的に修復します。「不良なセクタをスキャンし、回復する」にチェックを付けると、ディスクの表面検査を行い、不良セクタを検出したときは使用しないようにします。

- 7 「開始」ボタンをクリック

✓チェック!!

定期的エラーチェックを起動して、ハードディスク上にエラーがないことを確認してください。

フロッピーディスクドライブ

コンピュータに入力したプログラムやデータは、フロッピーディスクに書き込んで保存することができます。

使用上の注意

- ・ フロッピーディスクに飲み物等をこぼした場合は使用しないでください。
- ・ フロッピーディスクは、利用するときだけにフロッピーディスクドライブに入れてください。フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れたままで使用すると、ほこりによって読み書きエラーの原因になります。
- ・ 同じフロッピーディスクを連続して使用しないでください。連続使用によりフロッピーディスクに劣化が生じ、読み書きエラーの原因になります。

使用できるフロッピーディスク

フロッピーディスクには2DD、2HDの2種類の媒体があります。本機で読み書きまたはフォーマットできるフロッピーディスクは次の通りです。

フロッピーディスクの種類	容量	Windows XPおよびWindows XP Home		Windows 2000	
		読み書き	フォーマット	読み書き	フォーマット
2DD	640KB	×	×	×	×
	720KB		×		
2HD	1.2MB		×		
	1.44MB				

1.2MBの媒体を利用する場合、3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップが必要です。セットアップ方法については、「補足説明」に記載されています。以下の方法をご覧ください。

Windows XPおよびWindows XP Homeの場合
「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「補足説明」

Windows 2000の場合
「スタート」ボタン 「プログラム」 「補足説明」

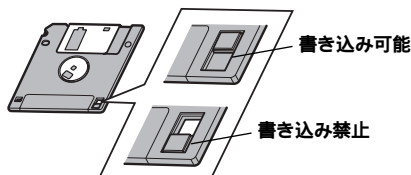
参照 ▶ フロッピーディスクのフォーマット Windowsのヘルプ

メモ

- ・ 1.2MBは、1.2MB(512バイト/セクタ)と1.25MB(1,024バイト/セクタ)の2種類があります。1.25MB(1,024バイト/セクタ)は、PC-9800シリーズでサポートしているモードです。
- ・ 未使用のフロッピーディスクをフォーマットするには多少時間がかかります。

フロッピーディスクの内容の保護

フロッピーディスクは保存したデータを誤って消してしまわないようにするために、ライトプロテクト(書き込み禁止)ができるようになっています。ライトプロテクトされているフロッピーディスクは、データの読み出しはできますが、フォーマットやデータの書き込みはできません。重要なデータの入っているフロッピーディスクは、ライトプロテクトしておく習慣をつけましょう。ライトプロテクトノッチを、図のように穴の開く方にスライドさせると、書き込み禁止になります。





CD/DVDドライブ

CD/DVDドライブ使用上の注意

- ・ CD/DVDドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによって、データが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・ アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ・ CDやDVDにラベルを貼ったり、信号面(文字などが印刷されていない面)に傷を付けないように注意してください。

CD/DVDの機能

CD-ROMはデータやプログラムが書き込まれているCDです。本機では、音楽用のCDを再生できます。

CD-R/RW with DVD-ROMドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-RおよびCD-RWへのデータやプログラムの記録や、DVD(Digital Versatile Disc)に記憶された音楽や動画映像を再生できます。

DVDマルチドライブが標準で搭載されているモデルでは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの機能に加えて、DVD-R(DVD-Recordable)、DVD-RW(DVD-ReWritable)およびDVD-RAM(DVD-Random Access Memory)へ大量のデータやプログラムを記録できます。

CD/DVDドライブの取り付け

VersaBay IVbにCD/DVDドライブ以外の機器が取り付けられている場合、CD/DVDドライブを使用するには、VersaBay IVbに取り付けられている機器を取り外し、CD/DVDドライブを取り付けてください。



参照 VersaBay IVbの機器の取り付け取り外し 「PART2 周辺機器を利用する」 「VersaBay IVbを利用する」

再生できるCD/DVDの種類

本機に標準で内蔵されているCD/DVDドライブでは、ISO9660に準拠したCD/DVD、または、下記表中の規格のCD/DVDを再生・表示することができます。本機のCD-R/RW with DVD-ROMドライブまたは、DVDマルチドライブを使ってDVDを再生するには、「WinDVD」をご利用ください。使用方法については、『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「WinDVD」をご覧ください。

✓チェック!!

- 本機で使用できるDVD-RAMは、カートリッジなし、あるいは、カートリッジからディスクを取り出せるタイプ(TYPE2、TYPE4)です。
- DVD-Videoを再生するときは、ディスプレイの解像度を1,024×768ドット以下に設定してください。
- 本機で記録したCD/DVDを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。
- 他の機器で記録したCD/DVDは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により、本機では記録再生性能を保証できない場合があります。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面にCompact Discの規格準拠を示す[CD]ロゴマークの入ったディスクを使用してください。
- CD(Compact Disc)規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、日本国内向け(リージョン2)および地域制限なし(リージョン0(ゼロ))以外のリージョンコードのDVDは再生できません。

CD/DVDのサイズ

ディスクのサイズ	
8センチ	12センチ

✓チェック!!

市販の12cmディスクへの変換アダプタを使用すると、CD/DVDドライブやディスクを破損することがありますので、使用しないでください。

CD/DVDの規格

規格	概要
CD-DA(CD-Digital Audio)	一般の音楽CD。プログラム用のCD-ROMでは音楽トラックの部分のこと
CD-ROM (CD-Read Only Memory)	パソコンで利用するための情報が入ったCD
CD-ROM XA (CD-ROM eXtended Architecture)	CD-Iで提案されたマルチメディアシステムを、既存のパーソナルコンピュータでも実現できるようにした規格
ビデオCD	MPEG1という圧縮方式を用いて記録された動画用のCD-ROM
CD Extra(CD PLUS)	一般の音楽CDに文字や画像などを記録できるようにした規格
Photo CD マルチセッション	写真を最大100枚まで記録できる追記型のCD
CD-R(CD-Recordable)	書き込みができるCD。マルチセッション対応の場合は、複数回に分けての書き込みも可能
CD-RW(CD-ReWritable)	書き込み/書き換えができるCD
DVD-ROM(DVD-Read Only Memory)	パソコンで利用するための情報が入ったDVD
DVD-Video	MPEG2という圧縮方式を用いて記録された動画用のDVD-ROM
DVD-Audio	音楽用のDVD-ROM。CD-DAよりも広いレンジで音声が収録されています。
DVD-R(DVD-Recordable)	書き込みができるDVD 1
DVD-RW(DVD-ReWritable)	書き込み/書き換えができるDVD 1
DVD-RAM	書き込み/書き換えができるDVD 2

- 1 書き込みには、対応ドライブとライティングソフトウェアが必要です。
- 2 書き込みには、対応ドライブとライティングソフトウェア (Windows XPを除く) が必要です。

メモ

Windows XPではDVD-RAMに書き込むためのライティングソフトウェアを必要としません(FAT32フォーマットのみ)。ハードディスクやフロッピーディスクと同じ感覚でデータを書き込むことができます。

CD-RおよびCD-RWへの書き込みとCD-RWのフォーマット

本機に内蔵されているCD-R/RW with DVD-ROMドライブは、CD-ROMドライブの機能に加えて、CD-Rへの書き込み機能とCD-RWへの書き換え機能と、DVD-ROMの再生機能を加えたものです。

使用できるディスク

CD-RおよびCD-RWについては、Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠したディスクをご利用ください。また、本機ではOrange Book Part3 Volume2と準拠したHigh-Speed CD-RWディスクへの書き込み/書き換えおよびフォーマット(4倍速/8倍速/10倍速に対応)もできます(DVDマルチドライブの場合は4倍速/8倍速)。また、本機では記憶容量550MB、650MBおよび700MBのCD-RおよびCD-RWが利用できません。

書き込みできる容量は、使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

使用するソフトウェア

本機のCD/DVDドライブを使って、CD-Rへの書き込み、CD-RWへのフォーマット/書き換えをするには、「RecordNow DX」または「DLA」が必要です。使用方法については『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

✓チェック!!

- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き損じによるCD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうかを確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他の機器では使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなどでは音楽CDを作成できない場合があります。

DVD-R、DVD-RWおよびDVD-RAMへの書き込みとDVD-RWおよびDVD-RAMのフォーマット

本機に内蔵されているDVDマルチドライブは、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの機能に加えて、DVD-Rへの書き込み機能とDVD-RWおよびDVD-RAMの書き換え機能を加えたものです。

使用できるディスク

DVD-Rについては、DVDレコーダブルディスク規格DVD-R for General Ver.2.0に準拠したディスクをお使いください。DVD-RWについては、DVDリライタブルディスク規格DVD-RW for General Ver.1.1に準拠したディスクをお使いください。DVD-RAMについては、DVD-RAM規格Ver.2.1に準拠したディスクをお使いください。

DVD-R、DVD-RWおよびDVD-RAMの書き込み/書き換え/フォーマットについて

DVDの種類	面・層	片面	片面	両面	両面
	記録容量		2.6GB	4.7GB	5.2GB
	サイズ	120mm	120mm	120mm	120mm
DVD-R	読み込み				
	書き込み				
DVD-RW	読み込み				
	書き込み/書き換え				
	フォーマット				
DVD-RAM	読み込み				
	書き込み/書き換え	×		×	
	フォーマット	×		×	

✓チェック!!

- ディスク・ドライブ・記録方式等の状況によっては、記録・再生性能を保證できない場合があります。
- 本機はDVD-Rの2倍速の書き込みに対応しています。
- DVD-RおよびDVD-RAMディスクには、著作権法の定めにより**私的録画補償金およびコピープロテクション(CPRM:Copy Protection for Recordable Media)**が含まれたディスク(for Video)と含まれないディスク(for Data)がありますので、ご購入の際ご注意ください。
- 両面に記録可能なDVD-RAMディスクは、同時に両面への記録・再生はできません。ディスクを一度取り出して、使用する面に入れ替えてから使用してください。
- DVD-RAMには、カートリッジなし、TYPE1(ディスク取り出し不可)TYPE2(ディスク取り出し可能)TYPE4(ディスク取り出し可能)があります。本機ではカートリッジなし、あるいはカートリッジからディスクを取り出せるタイプ(TYPE2、TYPE4)のみ扱えるので、ご購入の際ご注意ください。
- 本機にて、DVD+RおよびDVD+RWディスクによる再生、書き込みおよびフォーマットはできませんのでご注意ください。

使用するソフトウェア

本機のDVDマルチドライブでDVD-Rへの書き込みやDVD-RWおよびDVD-RAMへのフォーマット/書き換えをするには、「RecordNow DX」または「DLA」が必要です。使用方法については『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「RecordNow DX」または「DLA」をご覧ください。

チェック!!

- 書き込みに失敗したDVD-Rは再生できなくなります。書き損じによるDVD-Rの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうか確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他のDVD-ROMドライブ、DVD-R/RWドライブ、DVD-RAM/R/RWドライブなどでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、DVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD等について著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製等の際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製等に関する注意事項に従ってください。

非常時のディスクの取り出し

停電やソフトウェアの異常動作などにより、ディスクトレイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、次の手順で強制的に取り出すことができます。

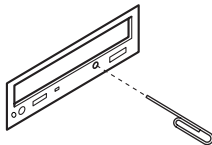
✓ チェック!!

本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。

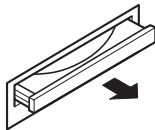
- 1 細くて丈夫な針金を用意する
ペーパークリップを伸ばしたものが使えます。



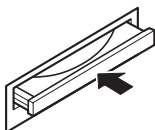
- 2 非常時ディスク取り出し穴(直径約1.5mm)に針金を差し込み、強く押す
ディスクトレイが15mmほど飛び出します。



- 3 ディスクトレイを手で引き出し、ディスクを取り出す



- 4 ディスクトレイをドライブの中に押し込む





サウンド機能

本機には音声を録音、再生するためのサウンド機能が内蔵されています。音声は内蔵スピーカ、または外部のオーディオ機器から再生することができます。

参照 ▶ [ボリュームコントロールのヘルプ](#)

音量の調節

音量の調節には内蔵スピーカボリューム、または「ボリュームコントロール」による方法があります。どちらかの方法で音量が最小になっていると、音が出ないので注意してください。

LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード

LAN(ローカルエリアネットワーク)に接続することにより、離れた所にあるコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここではLANへの接続手順を簡単に説明します。

LAN(ローカルエリアネットワーク)への接続

接続前の確認

本機は、100BASE-TXまたは10BASE-Tに対応したLANに接続することができます。

本機をネットワークに接続するには、別売のマルチポートリピータ(ハブ)と、別売の専用ケーブル(リンクケーブル)が必要です。100BASE-TXで使用するためには、カテゴリ5のリンクケーブルが必要です。

参照 ▶ 「Mate/Mate R 電子マニュアル」機能仕様一覧」

接続方法

リンクケーブルの接続方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

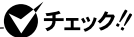
✓ チェック!!

- 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、リンクケーブルの接続を行ってください。
- 搭載されているLANボードは、接続先の機器との通信速度(100Mbps/10Mbps)を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、「ネットワークのプロパティ」で通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重(Half Duplex)に設定してください。

LANの設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows XP およびWindows XP Homeのヘルプの中にあるネットワーク関連の項目をご覧ください。

ネットワークソフトウェアをセットアップする



工場出荷時は、ネットワークプロトコル(TCP/IP)が設定されています。

- 1 「スタート」ボタン 「マイコンピュータ」をクリック
- 2 「その他」の「マイ ネットワーク」をクリック
- 3 「ネットワークタスク」の「ネットワーク接続を表示する」をクリック
- 4 「ローカル エリア接続」をクリック
- 5 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック
ここで「サービス」、「プロトコル」、「クライアント」をセットアップ
できます。必要な構成要素を追加してください。



必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

- 6 「スタート」ボタン 「マイコンピュータ」をクリック
- 7 「システムのタスク」の「システム情報を表示する」をクリック
- 8 「コンピュータ名」タブをクリック
- 9 「変更」ボタンをクリック

- 10** 「コンピュータ名の変更」の画面が表示されたら、「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」(Windows XPの場合)に必要な情報を入力する



コンピュータ名などがわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

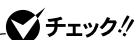
- 11** 「OK」ボタンをクリック

- 12** 再起動を促すメッセージが表示されたら、本機を再起動する
以上で完了です。

LANの設定(Windows 2000の場合)

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。必要な構成要素の詳細については、Windows 2000のヘルプの中にあるオンライン形式の『Microsoft Windows 2000 Professionalファーストステップガイド』のネットワーク関連の項目をご覧ください。

ネットワークソフトウェアをセットアップする



工場出荷時は、ネットワークプロトコル(TCP/IP)が設定されています。

- 1** 「スタート」ボタン「設定」「コントロールパネル」をクリック
- 2** 「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリック
- 3** 「ローカルエリア接続」をクリック
- 4** 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック
ここで「サービス」、「プロトコル」、「クライアント」をセットアップできます。必要な構成要素を追加してください。



必要な構成要素がわからない場合は、システムの管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

- 5 「スタート」ボタン、「設定」、「コントロールパネル」をクリック
- 6 「システム」をダブルクリック
- 7 「ネットワークID」タブをクリック
- 8 「プロパティ」ボタンをクリック
- 9 「コンピュータ名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に、必要な情報を入力する

メモ

コンピュータ名などがわからない場合は、システム管理者またはネットワークの管理者に相談してください。

- 10 入力を終わったら「OK」ボタンをクリック
- 11 再起動を促すメッセージが表示されたら、本機を再起動する
以上で完了です。

リモートパワーオン機能の設定(Windows XPおよびWindows XP Homeの場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については次の表の通りです。また、別途モジュールが必要になる場合がありますので、「セキュリティ/マネジメント機能」の「マネジメント機能 (P.93)」をご覧ください。

リモートパワーオン	電源が切れている状態から電源を入れる	
	スタンバイ状態から復帰する	
	休止状態から復帰する	

チェック!!

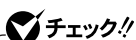
前回のシステム終了(電源を切る、スタンバイ状態にする、休止状態にする)が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindows XPを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。

電源が切れている状態からのリモートパワーオンの設定

電源が切れている状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴ画面が表示されたら、BIOSセットアップメニューが起動するまで【F2】を数回押す
- 3 メニューバーの「Power」「Resume On PME」を「Enabled」に設定する
- 4 【F10】を押す
- 5 「OK」を選択し、【Enter】を押す

以上で完了です。



起動時にパスワード入力する設定が必要な場合は、「PART3 システム設定」Startupの設定の「Password On Boot (P.132)をご覧ください、パスワードを設定してください。

スタンバイ状態および休止状態からリモートパワーオンで復帰する場合は、次の「スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定」へ進んでください。

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。なお、設定の際は管理者 (Administrator権限を持ったユーザ)が行ってください。

- 1 「スタート」ボタン「マイコンピュータ」をクリック
- 2 「その他」の「マイ ネットワーク」をクリック
- 3 「ネットワークタスク」の「ネットワーク接続を表示する」をクリック

- 4 「ローカル エリア接続」をクリック
- 5 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック
- 6 「構成」ボタンをクリック
- 7 「電源の管理」タブをクリック
- 8 次の3つの項目にチェックを付ける
 - ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
 - ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
 - ・「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 9 「OK」ボタンをクリック
- 10 「ネットワーク接続」を閉じる

以上で完了です。

リモートパワーオン機能の設定(Windows 2000の場合)

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能については次の表の通りです。また、別途モジュールが必要になる場合がありますので、「セキュリティ/マネジメント機能」の「マネジメント機能」(P.93)をご覧ください。

リモートパワーオン	電源が切れている状態から電源を入れる	
	スタンバイ状態から復帰する	
	休止状態から復帰する	

✓チェック!!

前回のシステム終了(電源を切る、スタンバイ状態にする、休止状態にする)が正常に行われなかった場合、リモートパワーオンを行うことはできません。一度電源スイッチを押してWindows 2000を起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。

電源が切れている状態からのリモートパワーオンの設定

電源が切れている状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。

- 1 電源を入れる
- 2 「NEC」のロゴ画面が表示されたら、BIOSセットアップメニューが起動するまで【F2】を数回押す
- 3 メニューバーの「Power」「Resume On PME」を「Enabled」に設定する
- 4 【F10】を押す
- 5 「OK」を選択し、【Enter】を押す

以上で完了です。

チェック!!

起動時にパスワード入力する設定が必要な場合は、「PART3 システム設定」Startupの設定の「Password On Boot (P.132)」をご覧ください、パスワードを設定してください。

スタンバイ状態および休止状態からリモートパワーオンで復帰する場合は、次の「スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定」へ進んでください。

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオンの設定

スタンバイ状態および休止状態からのリモートパワーオン機能を利用するには、以下の設定を行ってください。なお、設定の際はAdministrator権限を持ったユーザが行ってください。

チェック!!

本機能を利用するためには、Service Packがインストールされている必要があります。Service Packを削除した場合は、本機能は利用できません。また、Service Packを再追加することはできませんので、『活用ガイド 再セットアップ編』をご覧ください、再セットアップを行ってください。

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
 - 2 「ネットワークとダイヤルアップ接続」をダブルクリック
 - 3 「ローカルエリア接続」をクリック
 - 4 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリック
 - 5 「構成」ボタンをクリック
 - 6 「電源の管理」タブをクリック
 - 7 以下の2つのチェックボックスにチェックを入れる
 - ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を元に戻すことができるようにする」
 - ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
 - 8 「詳細設定」タブをクリックし、以下の設定を行う
 - ・プロパティの「PMEをオンにする」を選択し、値を「アクションなし」に設定する
 - 9 「OK」ボタンをクリック
 - 10 「OK」ボタンをクリック
 - 11 「ネットワークとダイヤルアップ接続」を閉じる
- 以上で完了です。



無線LAN機能

無線LANモデルでは、無線LANによって、離れているコンピュータ同士で、データやプログラムなどを共有したり、メッセージを送受信することができます。ここでは、無線LANへの接続を簡単に説明します。

無線LAN使用上の注意

- ・ 通信速度・通信距離は、無線LAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- ・ 電波の性質上、通信距離が離れるにしたがって通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、無線LAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- ・ 5GHzまたは2.4GHz無線LAN機能を使用したネットワークへの接続には、別売の5GHzまたは2.4GHz無線LANアクセスポイントなどが必要です。
- ・ 医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。

ワイヤレスLAN(無線LAN)製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

お客様の権利(プライバシー保護)に関する重要な事項です!

ワイヤレスLAN(無線LAN)では、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等とワイヤレス(無線)アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁等)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報
メールの内容

等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)

特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す(なりすまし)

傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)

コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、ワイヤレスLAN(無線LAN)カードやワイヤレス(無線)アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、ワイヤレスLAN(無線LAN)製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

ワイヤレスLAN(無線LAN)機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、ワイヤレスLAN(無線LAN)カードやワイヤレスLAN(無線LAN)アクセスポイントをご使用になる前に、必ずワイヤレスLAN(無線LAN)機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

なお、ワイヤレスLAN(無線LAN)の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用下さい。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、NEC121コンタクトセンター(フリーコール:0120-977-121)までお問い合わせ下さい。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、ワイヤレスLAN(無線LAN)の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

本機で設定できるセキュリティ

✔チェック!!

- 以下のセキュリティについての設定をする場合、使用するアクセスポイントなどもこれらの設定に対応している必要があります。
- これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。

盗聴(傍受)を防ぐ

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間の無線LANの通信データを暗号化できます。ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをお勧めします。

不正アクセスを防ぐ

- アクセスポイントと通信機器の両方に任意のネットワーク名(SSID)を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、SSIDを自動的に検出する機能を持った機器を使用されると、SSIDを知られてしまいます。これを回避するには、アクセスポイント側でSSIDを通知しないように設定する必要があります。
- 接続するパソコンなどのMACアドレス(ネットワークカードが持っている固有の番号)をアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外はアクセスポイントに接続できなくなります。

より高度なセキュリティを行うには()

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA(Wi-Fi Protected Access)機能を利用します。IEEE802.1X/EAP(Extensible Authentication Protocol)規格によるユーザ認証および、従来のWEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号方式TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)を使用することで、より高度なセキュリティを行うことができます。

✔チェック!!

WPA機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器およびネットワーク環境もWPA機能をサポートしている必要があります。

無線LAN製品との接続

本製品と接続できる製品は、以下の通りです(2003年10月現在)。

無線LAN対応製品

本製品と接続できる無線LAN製品には、無線LAN内蔵PC、レジデンシャルゲートウェイ、無線LANアクセスポイント、無線LAN周辺機器などがあります。

接続できる製品の情報は、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC8番街」(<http://nec8.com>)の「商品の適合検索」でご確認ください。

1. 「サポート情報」をクリック
2. 左側のメニューの「商品情報・消耗品」にマウスポインタを合わせる
3. 表示されたメニューの「PC検索(新旧モデル情報/適合情報)」をクリック
4. 「商品の適合検索」をクリック

無線LANの設定

「Mate/Mate R電子マニュアル」の「無線LAN(IEEE802.11a/b/g)」についてをご覧ください。設定を行ってください。



USBコネクタ

USB対応機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBコネクタに接続する

接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどのインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

メモ

- ・ 接続してすぐ使うことができるUSB対応機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでからお使いください。
- ・ USB対応機器は、本機の電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

接続するときの注意

- ・ USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれず不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- ・ はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- ・ スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。

- USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を外してください。
- 外付けUSBハブ経由でUSB対応機器を使用する場合は、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。
- USB機器を接続する場合は、必ずキーボードが接続された状態で行ってください。
- USB対応周辺機器の、本製品での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。また、各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC8番街」(<http://nec8.com>)をご覧ください。

USB2.0を利用する


本機のUSBコネクタは、USB2.0に対応しています。USB2.0に対応している周辺機器を取り付けることで、USB2.0の転送速度を利用することができます。

USB2.0を利用する場合の注意

- USB2.0の転送速度を出すにはUSB2.0対応の機器を接続する必要があります。また、USB2.0の機器をUSB1.1規格のハブで利用した場合はUSB1.1の転送速度に制限されます。
- 本機でWindows 2000をお使いの場合、スタンバイ状態または休止状態から復帰後、接続しているUSBキーボード/USBマウスが動作するまでに時間がかかることがあります。
- 本機でWindows 2000をお使いのときに、USB対応機器を接続したままの状態ですタンバイ状態または休止状態にした場合、スタンバイ状態または休止状態から復帰後に「デバイスの取り外しの警告」が表示されることがあります。
この場合は次の手順を行い、スタンバイ状態または休止状態にする前にUSB対応機器を取り外してください。

- 1 USB対応機器が使用中でないことを確認し、タスクトレイの「取り外し」アイコンをクリック
- 2 表示されたUSB対応機器を選択し、「停止」ボタンをクリック
表示されるUSB対応機器の例：
 - ・ NEC USB Floppy
- 3 「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されたら、「OK」ボタンをクリック
- 4 停止させたUSB対応機器を本体から取り外す

再度USB対応機器を使用する場合は、スタンバイ状態、または休止状態から復帰後にUSB対応機器を再接続してください。

 **チェック!!**

2000



- ・ 本機でWindows 2000を使用し、スタンバイ状態または休止状態から復帰させた場合、USB接続機器(キーボード、マウス、プリンタ等)が動作しないことがあります。この場合は一度USB対応機器を抜き差ししてください。
- ・ 印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに接続しているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。



USBコネクタに機器を取り付ける

- 1 USBコネクタ(⇨または⇩)にプラグを差し込む
USBコネクタが複数ある場合は、どのコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域(タスクトレイ)にが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウで行います。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

- 1** 画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリック
「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。
- 2** 取り外したい周辺機器名をクリックして、「停止」ボタンをクリック
周辺機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。
- 3** 「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名をクリックして、「OK」ボタンをクリック
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
Windows XPをお使いの場合は手順5へ進んでください。
Windows 2000の場合は手順4へ進んでください。
- 4** 「OK」ボタンをクリック
- 5** 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウを閉じる
これで周辺機器を取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待てば使用できます。



セキュリティ/マネジメント機能

本機は、システム管理者が効率よく本機をセキュリティ/マネジメントするための機能を備えています。

セキュリティ/マネジメント機能の概要

システム管理者が、効率よくパソコンをセキュリティ/マネジメントするためには、次のような手段・機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・ 機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウィルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)(I/Oロック)
- ・ 本体の盗難を防止する。(筐体ロック)
- ・ システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。(リモートパワーオン/オフ機能)

本機には、このような手段・機能を利用するために、次のような機能を備えています。

セキュリティ機能

指紋認証の利用

別売の指紋認証ユニット(シリアル)〔PK-FP002M〕を利用することで、本体の起動時やパスワードの入力を要求されるような場合、かわりに指紋を照合することで、ユーザーの不正使用やデータの漏洩を防止します。また、パスワードを忘れる、パスワードを解読されるといったことを未然に防ぎます。なお、BIOSレベルの認証(BIOS LOCK)はできません。

参照▶ 指紋認証ユニット(シリアル)〔PK-FP002M〕に添付のマニュアル

管理パスワード/ユーザパスワード

管理パスワード/ユーザパスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。BIOSセットアップメニューでそれぞれのパスワードを設定し、「Password On Boot」を「Enabled」に設定してください。

チェック!!

パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前に「PART3 システム設定」Securityの設定」を印刷しておくことをおすすめします。

I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O(フロッピーディスクドライブ、シリアルポート、パラレルポートなど)を利用できないようにする機能です。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスを防止したり、システムに影響を及ぼすアプリケーションをインストールすることを防止することができます。また、CDレスモデルは、このような概念からあらかじめCD/DVDドライブが搭載されていません。

参照 ▶ 「PART3 システム設定」『Componentsの設定』の「I/Oロック」(P.137)

ハードディスクパスワード機能

本機で使用するハードディスクドライブにパスワードを設定することにより、本機以外のパーソナルコンピュータでハードディスクドライブの不正使用を防止することができます。万一、ハードディスクドライブが盗難にあって、他のパーソナルコンピュータに設置された場合でも、パスワードが必要となるため、重要なデータの漏洩を防ぐことができます。

参照 ▶ ハードディスクパスワードの設定 「PART3 システム設定」『Startupの設定』(P.130)

筐体ロック

筐体ロックを使用することで、本体の盗難やスーパバイザ/ユーザパスワード解除の防止に役立てることができます。筐体ロックはロック付き盗難防止ケーブルを使用することができます。1つは南京錠とワイヤーチェーンを利用することができ、もう1つはキーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しており、別売のオプション(セキュリティケーブルα(PK-SC/CA02))を利用することができます。なお、筐体ロックはVersaBay IVbアンロックと共通になっていますので、VersaBay IVbの盗難も防止することができます。

ウイルス検出・駆除

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うには「McAfee VirusScan Online」を使用します。

参照 ▶ 『活用ガイド ソフトウェア編』『アプリケーションの概要と削除/追加』の「McAfee VirusScan Online」

マネジメント機能

リモートパワーオン機能(Remote Power On 機能)

LAN(ローカルエリアネットワーク)経由で、離れたところにあるパソコンの電源を入れる機能です。

本体およびLAN ボードがリモートパワーオン機能に対応しているシステムでは、本体の電源が切れているときも、リモートパワーオン用の専用コントローラは通電されています。管理パソコンはESMPRO/Client Managerなどからのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケット(Magic Packet)を離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコン(本機)の専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理パソコンから、LAN 接続された本機の電源を入れることができます。リモートパワーオン機能を利用するためには、管理パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア(ESMPRO Client Manager など)のインストールが必要です。また本機のBIOS設定が必要になります。

参照 ▶ リモートパワーオンの設定 「LAN(ローカルエリアネットワーク)ボード」
「リモートパワーオン機能の設定(Windows XPおよびWindows XP Home の場合)」(P.77)「リモートパワーオン機能の設定(Windows 2000の場合)」
(P.79)「PART3 システム設定」Powerの設定 (P.138)

ネットワークブート機能(PXE搭載)

クライアントPCのシステムが起動する前に、管理者PCからOS等をロードすることができます。別途、PXE(Preboot eXecution Environment)に準拠した運用管理ソフトウェアが必要です。

参照 ▶ 「PART3 システム設定」の「Powerの設定」(P.138)

リモートコントロール/ファイル配信

本機のデータやシステムファイルなどのバックアップ、ファイル転送、アプリケーションのインストール、アプリケーションの実行などの操作()を離れたところにあるシステム管理者のマシンから、実施することができます。Windows 2000の場合は、本機およびシステム管理者のマシンにそれぞれ市販のリモートコントロールソフトウェア(pcAnywhereなど)が必要です。

アプリケーションによっては、できないものがあります。

信頼性機能

XP 2000 StandbyDisk Solo

ハードディスク内にある第1パーティション(Cドライブ)の使用領域とほぼ同じ容量をバックアップ先(スタンバイ・エリア)として同パーティション内に確保し、自動的に使用領域をバックアップします。稼働中のシステムに障害が起きた際、スタンバイ・エリアからシステムを起動しシステムを復旧することが可能です。

ハードディスクドライブ(StandbyDisk Soloあり)を搭載したモデルでご利用になれます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo」

StandbyDisk Solo RB

StandbyDisk Solo RBは、ハードディスク内にある第1パーティション(Cドライブ)の使用領域とほぼ同じ容量をバックアップ先(以後スタンバイ・エリア)として同パーティション内に確保し、使用領域のバックアップを行います。稼働中のシステムに障害が起きた際、スタンバイ・エリアからシステムを起動することで、ハードウェア障害であるか、あるいはソフトウェア障害であるかを絞り込むことが可能です。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「StandbyDisk Solo RB」

ハードディスクドライブ障害時のバックアップ機能

ハードディスクドライブの異常を監視します(SMART機能)標準装備されているハードディスクドライブは、S.M.A.R.T(Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology)に対応しています。また、「Masty Data Backup」との連携によってバックアップをとることができます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』アプリケーションの概要と削除/追加」の「Masty Data Backup」

2

周辺機器を利用する

別売の周辺機器の取り付け/取り外し方法や注意事項などを説明しています。

この章の読み方

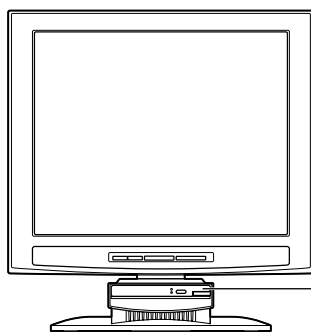
次ページの「接続できる周辺機器」、「接続にともなう注意点 (P.99)」を読んだ後に、目的にあわせて次に該当するページを読んでください。

この章の内容

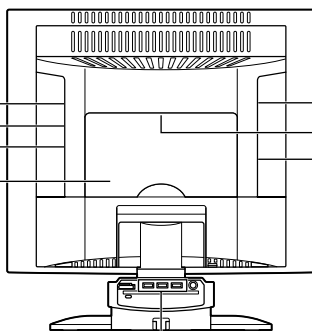
接続できる周辺機器	98
接続にともなう注意点	99
本体カバー類の取り外し	105
増設RAMボード(メモリ)の取り外し/取り付け	109
PCカードを利用する	116
VersaBay IVbを利用する	122

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器が取り付けられます。



VersaBay IVb用機器
・CD/DVDドライブ
・セカンドハードディスクドライブ
など
(「VersaBay IVbを利用する」(P.122))



ヘッドフォン
オーディオ機器
マイク
メモリスロット内
増設RAMボード(メモリ)
(増設RAMボード
(メモリ)の取り外し/
取り付け(P.109))

USB機器
ケーブルカーブ内
・プリンタ
・PS/2機器
・外付けFAXモデム
など

PCカード
(「PCカードを利用する」(P.116))

USB機器

接続にもなう注意点

周辺機器を取り付ける場合、次のようなことに注意してください。

接続前の確認

取り付けたい周辺機器は、本機で使えるものですか？

取り付けたい周辺機器が本機で使えるものかどうか、周辺機器のマニュアルで確認するか、製造元に問い合わせてください。なお、NEC製の周辺機器で接続可否の確認がとれているものについては、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC 8番街」(<http://nec8.com>)の「商品の適合検索」でご確認ください。

1. 「サポート情報」をクリック
2. 左側のメニューの「商品情報・消耗品」にマウスポインタを合わせる
3. 表示されたメニューの「PC検索(新旧モデル情報/適合情報)」をクリック
4. 「商品の適合検索」をクリック

接続情報の検索方法を選択して、取り付け可能な周辺機器をご確認ください。

リソースは確保されていますか？

周辺機器を使うには、「リソース」が必要です。「デバイスマネージャ」で、その周辺機器で使用されるリソースがあいているかどうか確認してください。リソースが足りない場合は、使わない機器や機能のリソースを空けて、その分を取り付けたい周辺機器が使えるよう設定を変更します。

プラグ&プレイ セットアップについて

周辺機器の中には、デバイスドライバ(デバイスのためのソフトウェア)のセットアップが必要なものがあります。

プラグ&プレイとは、取り付けたハードウェアを自動的に検出してセットアップを行う機能です。

新しいハードウェアを取り付けると、次に電源を入れたときにWindowsによって自動的に新たなハードウェアが検出され、必要に応じてデバイスドライバウィザードが起動されます。外付けの周辺機器を接続した場合は、本体の電源を入れる前に周辺機器の電源を入れてください。

周辺機器にデバイスドライバのフロッピーディスクまたはCD-ROMが添付されている場合は、周辺機器の取扱説明書の指示に従ってセットアップを行ってください。

デバイスドライバの追加について

- ・ 周辺機器によっては、デバイスドライバのセットアップが必要な場合があります。周辺機器のマニュアルをご覧になり、必要なデバイスドライバを組み込んでください。
- ・ デバイスドライバを組み込んだ後、本機の再起動を求められることがあります。その際には他の操作をせずに直ちにWindowsを再起動してください。
- ・ デバイスドライバを組み込んだ後の再起動の際には、通常よりも時間がかかることがあります。正常に再起動されるまで電源は切らないでください。
- ・ Windows XP対応のデバイスドライバが「NEC 8番街」(<http://nec8.com>)で提供されている場合がありますので、定期的に確認してください。

メモ

修正モジュールやアップデートモジュールの情報は、次の手順で表示される「NECサポートプログラム」画面から確認できます。

1. 「サポート情報」をクリック
2. 左側のメニューの「ダウンロード・OS情報・注意事項」にマウスポインタを合わせる
3. 表示された「ダウンロード」項目内の「ビジネスPC」をクリック

接続がうまくできない場合

ケーブルは正しく接続されていますか？

見落としがちなことですが、本機や周辺機器を動かしたときなどに、ケーブルが外れたりすることはよくあります。ケーブルがきちんと接続されているか、確認してください。

デバイスドライバは組み込みましたか？ 最新のものですか？

周辺機器を取り付けてもデバイスドライバが組み込まれていないと、使うことはできません。周辺機器のマニュアルをご覧になり、デバイスドライバを組み込んでください。また、周辺機器のデバイスドライバは、知らないうちに改善されて新しくなっていることもあります。「デバイスドライバの組み込み方は正しいのに、うまく動かない」といった場合は、デバイスドライバを最新のものにするとうまく動くようになることもあります。周辺機器の製造元に問い合わせ、最新のデバイスドライバを入手してください。なお、NEC製の最新ドライバはNECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC 8番街」(<http://nec8.com>)から入手することができます。

メモ

ドライバのダウンロードは、次の手順で行ってください表示される「NEC サポートプログラム」画面から確認できます。

1. 「サポート情報」をクリック
2. 左側のメニューの「ダウンロード・OS情報・注意事項」にマウスポインタを合わせる
3. 表示された「ダウンロード」項目内の「ビジネスPC」をクリック

READMEファイルや、『補足説明』を読みましたか？

アプリケーションに付いているREADMEファイルには、マニュアルやヘルプに記載されていない重要な情報が掲載されていることがあります。また、『補足説明』には、本機をご利用にあたっての注意事項や、マニュアルには記載されていない最新の情報について説明しています。添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」に入っている「Mate/Mate R 電子マニュアル」からご覧になれます。また、以下の方法でもご覧になれます。

Windows XPの場合

「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「補足説明」

Windows 2000の場合

「スタート」ボタン 「プログラム」 「補足説明」

周辺機器を複数取り付けたため、何が原因かわからなくなっていますか？

このような場合は、取り付けた機器をいったん全部外します。その後、1つずつ取り付けては本機を起動するという作業を繰り返します。本機が起動できなくなるなどの現象を発生させる機器があったら、その機器に問題があります。リソースの設定やデバイスドライバの設定などが正しくできているか、確認してください。

トラブルが起きていませんか？

『活用ガイド ソフトウェア編』トラブル解決Q&A」からあてはまりそうなトラブルを探してください。あてはまる項目が見つからない場合は、「トラブルを解決するには(ヒント)」をご覧ください。

リソースの競合が起ったら

PCIカードは、プラグ&プレイに対応しているため基本的に設定不要ですが、本機が作動しない場合は、リソースの競合が起きているかもしれませんのでここをお読みください。

最もリソースの競合が起きやすいのは、本機に新しい機器が追加された場合です。新しい機器が検知されたときにシステムの状態が調べられます。新しい機器がプラグ&プレイに対応している場合は、リソースの競合が起きないように自動的に設定されます。新しい機器がプラグ&プレイに対応していない場合は、リソースの競合が起これるとドライバを組み込めなくなります。本機が起動しなくなるような競合に対しては、二重三重の保護機能が働くように設定されているからです。ドライバの異常、リソースの競合など何らかの障害があると、アイコンに黄色い「！」マークや赤い「×」マークが表示されます。

Windowsで、リソースの競合が起こっているかどうかは、以下の方法で確認してください。


Windows XPの場合

- 1 「スタート」ボタン「マイコンピュータ」をクリック
- 2 「システムタスク」の「システム情報を表示する」をクリック
- 3 「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリック

表示される「デバイスマネージャ」で確認できます。

異常が表示された場合は、まずその機器のプロパティを開いてください。「デバイスの状態」の欄に、異常の原因が表示されます。異常の原因がリソースの競合であった場合は、次の方法で解決することができます。

- 1 「リソース」タブを開く
- 2 「自動設定」のチェックを外す
- 3 「設定の登録名」で別の構成を選んでから、「設定の変更」をクリック

 **チェック!!**

選択した機器やリソースの種類によっては、設定値を変更できない場合があります。その場合、競合を起こしているもう一方の機器の設定値を変更してください。なお、本機のリソースについては、「PART4 付録」の「割り込みレベル・DMAチャンネル」をご覧ください。

Windows 2000の場合

- 1 「スタート」ボタン、「設定」、「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
- 3 「ハードウェア」タブの中の「デバイスマネージャ」ボタンをクリック

表示される「デバイスマネージャ」で確認できます。

チェック!!

USB接続のキーボードとマウスをご使用の場合は、「101/102英語キーボード」、「Microsoft Natural PS/2キーボード」または「PS/2互換マウス」に黄色い「！」が表示される場合がありますが、異常ではありません。

異常が表示された場合は、まずその機器のプロパティを開いてください。「デバイスの状態」の欄に、異常の原因が表示されます。異常の原因がリソースの競合であった場合は、次の方法で解決することができます。

- 1 「リソース」タブを開く
- 2 「自動設定」のチェックを外す
- 3 「設定の登録名」で別の構成を選んでから、「設定の変更」をクリック

チェック!!

選択した機器やリソースの種類によっては、設定値を変更できない場合があります。その場合、競合を起こしているもう一方の機器の設定値を変更してください。なお、本機のリソースについては、「PART4 付録」の「割り込みレベル・DMAチャンネル」をご覧ください。

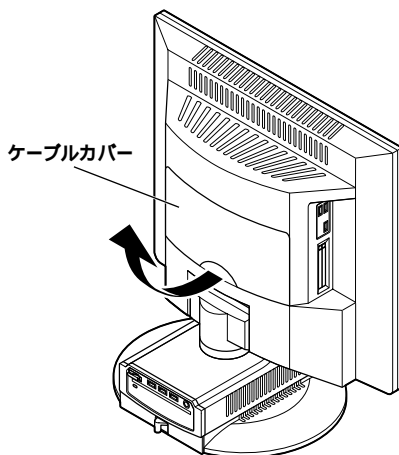
本体カバー類の取り外し

ここでは、内蔵機器を取り付けるときなどに必要なカバー類の取り外し方について説明します。

LCDリアカバーの取り外し

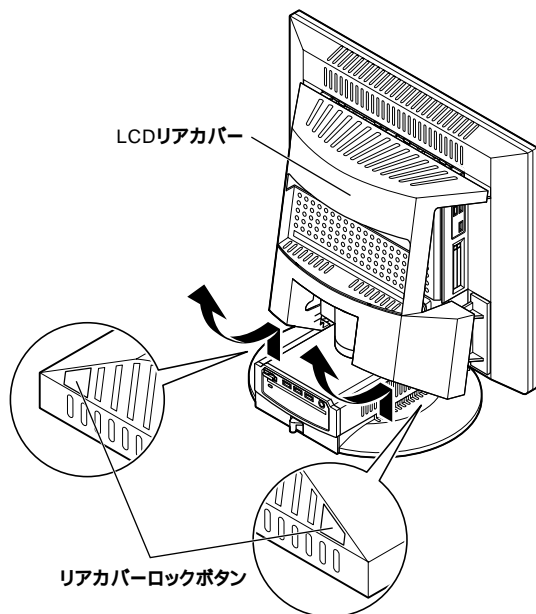
メモリを取り付けたりする場合は、本体のLCDリアカバーを取り外す必要があります。

- 1 本機の電源を切る
- 2 ケーブルカバー内部のコネクタに周辺機器を接続していない場合は、手順3へ進む
ケーブルカバー内部のコネクタに周辺機器を接続している場合は、ケーブルカバーを取り外す



- 3 本体に接続されているすべてのケーブル(電源ケーブルなど)を取り外す
- 4 盗難防止用の錠を使用している場合は取り外す

- 5** LCDリアカバー底面にあるリアカバーロックボタン(2箇所)を押し込み、そのまま手前に引いて、LCDリアカバーを取り外す

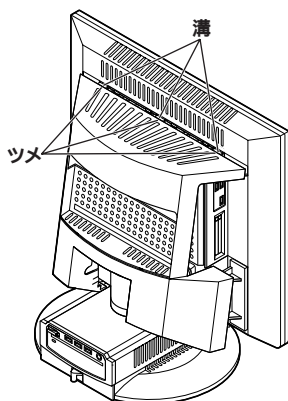


LCDリアカバーの取り付け

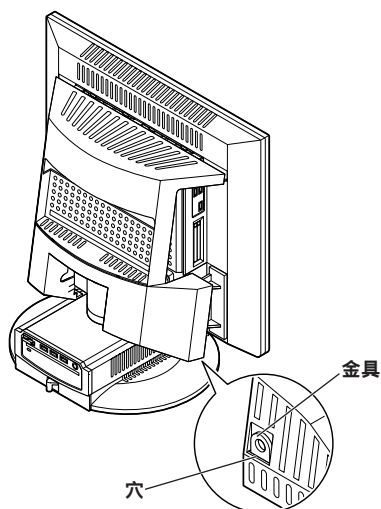
2

周辺機器を利用する

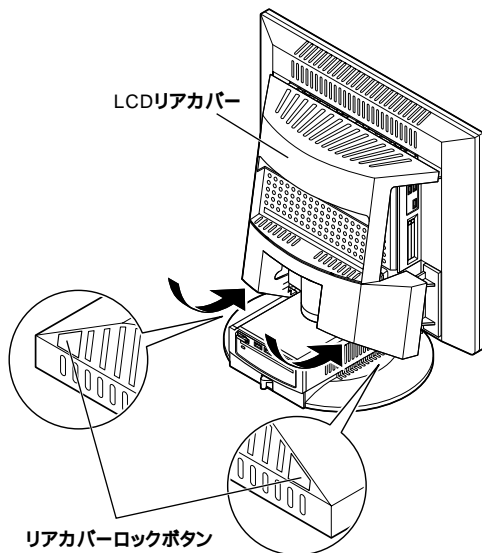
- 1 盗難防止ロックの金具が収納されていることを確認する
- 2 LCDリアカバー上部のツメ(3箇所)を本体上部の溝に合わせて、はめ込む



- 3 盗難防止ロックの金具をLCDリアカバーの穴に通す



- 4** LCDリアカバー底面にあるリアカバーロックボタン(2箇所)を押し込みながら、LCDリアカバーと本体との隙間が無くなるまでLCDリアカバーをしっかりと取り付ける
リアカバーロックボタン(2箇所)が元に戻らない場合、カバーは完全に取り付けられていません。ディスプレイ部分の前面下側とLCDリアカバー下側をはさみ込むようにして押え、カバーをしっかりととはめ込んでください。



- 5** 盗難防止用の錠を使用している場合は取り付ける

メモ

VersaBay IVb機器用盗難防止ロックの金具が引き出しにくい場合は、VersaBay IVbアンロックを引き起こすと、金具が引き出しやすくなります。

- 6** ケーブル(電源ケーブルなど)を本体に取り付ける

- 7** ケーブルカバーを取り外した場合は、ケーブルカバーを元通りに取り付ける

増設RAMボード(メモリ)の取り外し/取り付け

大量のメモリを必要とするOSやアプリケーションを使用する場合には、別売の増設RAMボードを取り付けることで、メモリを増やすことができます。

取り付け前の確認

本機に増設RAMボードを取り付ける前に、取り付けられる増設RAMボードを確認します。

本機には、メモリスロットが2つあり、別売の増設RAMボードを取り付けることにより最大1GBまで増設できます。

取り付けられる増設RAMボード

本機には、増設RAMボードを1枚単位で、最大2枚まで取り付けられます。取り付け可能な増設RAMボードの情報は、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC 8番街」(<http://nec8.com>)の「商品の適合検索」でご確認ください。

1. 「サポート情報」をクリック
2. 左側のメニューの「ダウンロード・OS情報・注意事項」にマウスポインタを合わせる
3. 表示された「ダウンロード」項目内の「ビジネスPC」をクリック

スロットへの取り付け順序

必ずスロット番号が小さい方から埋まるように取り付けてください。スロット0から順番に取り付けることとなります。メモリ容量による取り付け順序の制限はありません。

増設RAMボードの取り外し

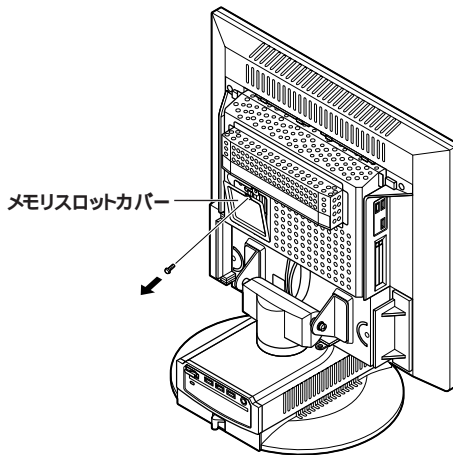
✓チェック!!

増設RAMボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと、増設RAMボードを破損させる原因となります。増設RAMボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMボードを持つときは、ボードの縁の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。

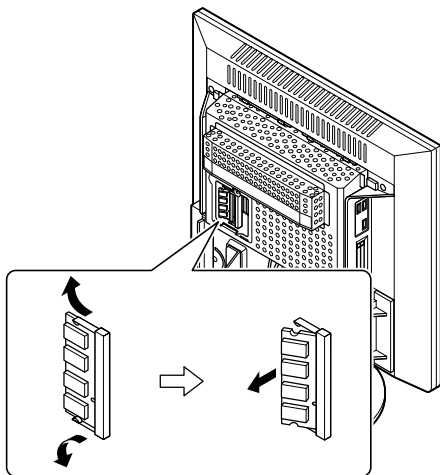
- 1 「LCDリアカバーの取り外し」の手順でLCDリアカバーを取り外す(P.105)
- 2 メモリスロットカバーのネジ(1本)を外し、メモリスロットカバーを取り外す

✓チェック!!

ネジを取り外した後、ネジとメモリスロットカバーが落下しないように注意してください。



- 3 コネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードのロックが外れ、起き上がります。



- 4 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く

✓チェック!!

- ・ 増設RAMボードが落下しないように注意してください。
- ・ 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。

- 5 メモリスロットカバーを取り付け、カバーを取り外したときのネジでもと通りに固定する
- 6 「LCDリアカバーの取り付け」の手順で、LCDリアカバーを取り付ける(P.107)

増設RAMボードの取り付け

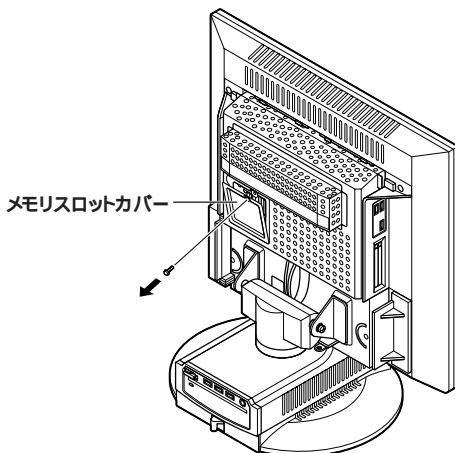
✓チェック!!

- ・ 増設RAMボードは、静電気に大変弱い部品です。身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと、増設RAMボードを破損させる原因となります。増設RAMボードに触れる前に、身近な金属(アルミサッシやドアのノブなど)に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。また、増設RAMボードを持つときは、ボードの緑の部分を持ち、金属の部分には触れないようにしてください。特に、端子の部分を手で触れないように注意してください。
- ・ 取り付け前に、本機で使用できる増設RAMボードであることを確認してください。

- 1 「LCDリアカバーの取り外し」の手順で、LCDリアカバーを取り外す(P.105)
- 2 メモリスロットカバーを固定しているネジ1本を外し、メモリスロットカバーを取り外す

✓チェック!!

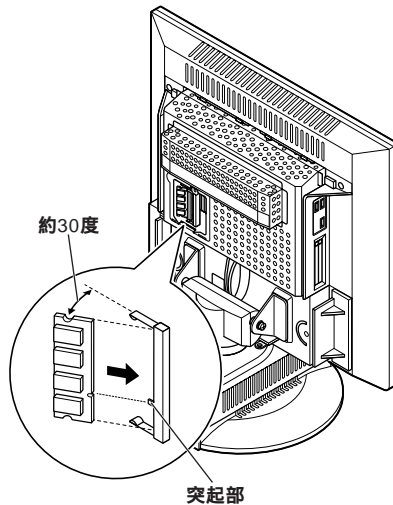
ネジを取り外した後、ネジとメモリスロットカバーが落下しないように注意してください。



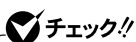
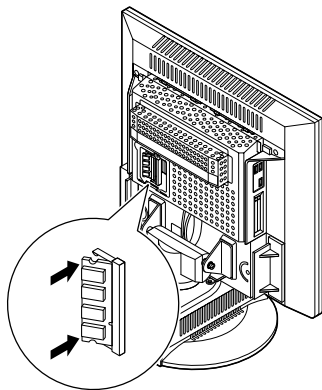
- 3 増設RAMボードの切り欠き部分を本機コネクタの突起部にあわせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで差し込む

✓チェック!!

- 増設RAMボードを落とさないように注意してください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードを破損させる原因となります。取り付け方向に注意してください。

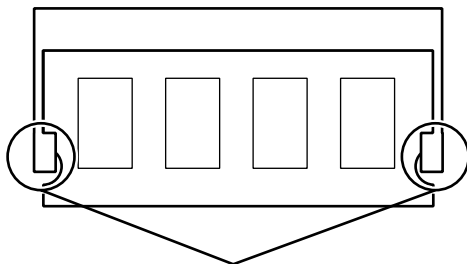


- 4** 増設RAMボードを本機コネクタに強く押し込む
カチッと音がして、増設RAMボードがコネクタ両端の金具でロックされます。



チェック!!

増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。



両方がロックされていることを確認してください。

- 5** メモリスロットカバーを取り付け、カバーを取り外したときのネジでもと通り固定する
- 6** 「LCDリアカバーの取り付け」の手順で、LCDリアカバーを取り付ける(P.107)

メモリ取り付け後は、次の「メモリ容量の確認方法」(P.115)に従って、取り付けが正しく行われたかどうか確認してください。

メモリ容量の確認方法

Windows XP、またはWindows XP Homeの場合

- 1 「スタート」ボタン 「マイコンピュータ」をクリック
- 2 「システムタスク」の「システム情報を表示する」をクリック
「システムのプロパティ」の「全般」タブの中にメモリの容量が表示されます。

Windows 2000の場合

- 1 「スタート」ボタン 「設定」 「コントロールパネル」をクリック
- 2 「システム」をダブルクリック
「システムのプロパティ」の「全般」タブの中にメモリの容量が表示されます。

✓チェック!!

- BIOSセットアップメニューの「Memory」の「Total RAM」でも確認することができます。
- 電源投入後ディスプレイの画面が表示されるまでの時間は、メモリの容量によって変わってきます。これは、メモリの初期化のためです。256MBを1枚実装した場合、約3秒かかります。

メモリ容量が増えていない場合は、増設RAMボードが正しく取り付けられているか、再度確認してください。

PCカードを利用する

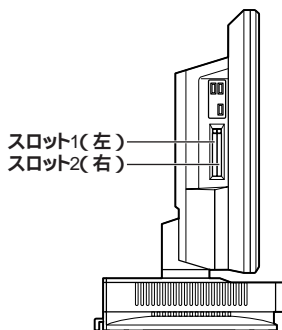
本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を取り付けることができます。

用語 PCカード

PCカードとは、社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA) とPCMCIA (Personal Computer Memory Card International Association) との間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモリカードやモデムカード、SCSIインタフェース対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカード (ATAカードなど) もあります。

PCカードスロットについて

TYPE IかTYPE IIのPCカードを各スロットに1枚ずつ2枚まで、または2つのスロットをあわせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。なお、本機では、ZVポート対応のPCカードは使用できません。



PCカードの取り扱い

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・ 濡らさないでください。
- ・ 重いものを載せたり、ねじ曲げたりなどしないでください。
- ・ ぶつかけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・ PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。
- ・ 本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

チェック!!

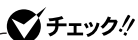
本機の使用直後はPCカードが熱くなっていますので、取り外し/取り付けにご注意ください。

Windows使用中の取り扱い

本機がスタンバイ状態または休止状態の場合、PCカードをセットしたり取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されるとデータを消失させてしまうことがあります。

PCカードの取り付け

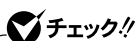
1 PCカードの差し込む向きを確認する



チェック!!

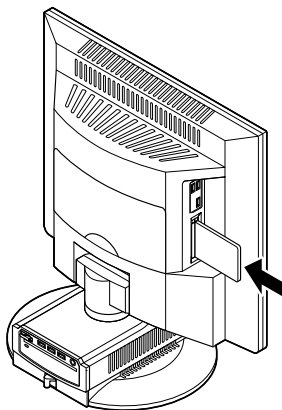
間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損させるおそれがあります。

2 PCカードイジェクトボタンが収納された状態でPCカードの表面を本体背面側へ向け、垂直にまっすぐ静かに差し込む





チェック!!

PCカードイジェクトボタンが突き出た状態でカードを差し込むと、イジェクトボタンを収納できなくなります(イジェクトボタンが出た状態のままになります)。カードを差し込むときは、イジェクトボタンを収納(カチッと音がするまで押し付ける)してから差し込んでください。



PCカードの取り外し

正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

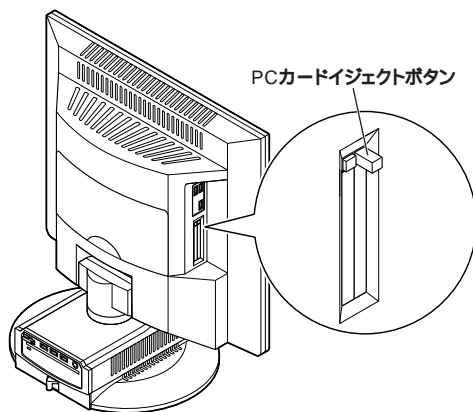
- 1 画面右下の通知領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリック
「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウが表示されます。
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。

チェック!!

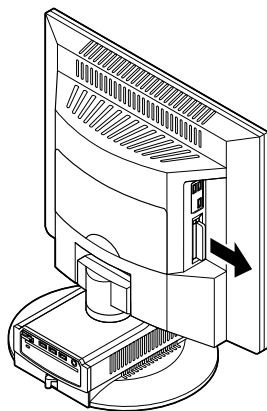
SCSI PCカードを取り外すときタスクトレイの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」でエラーとなる場合があります。このような場合はWindowsを終了してからSCSI PCカードを取り外してください。

- 2 取り外したい周辺機器名をクリックして、「停止」ボタンをクリック
周辺機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。
- 3 「ハードウェアデバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名をクリックして、「OK」ボタンをクリック
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
Windows XPをお使いの場合は手順5へ進んでください。
Windows 2000の場合は手順4へ進んでください。
- 4 「OK」ボタンをクリック
- 5 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」または「ハードウェアの取り外し」ウィンドウを閉じる
これで周辺機器を取り外すことができます。

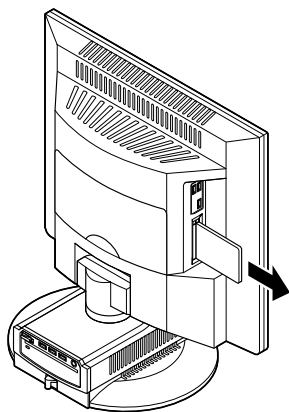
- 6** PCカードイジェクトボタンを押し込む
ボタンを離すとPCカードイジェクトボタンが飛び出ます。



- 7** 再度PCカードイジェクトボタンを押し込む
PCカードが押し出されます。



8 PCカードを静かに取り出す



VersaBay IVbを利用する

本機のVersaBay IVbには、工場出荷時に取り付けられている機器を取り外して、別売のVersaBay IVb対応のオプション機器を取り付けて使用することができます。

VersaBay IVbで使用できる機器

本機のVersaBay IVbには次のような別売のオプション機器を取り付けて使用できます。

- ・ セカンドハードディスクドライブ
 - ・ CD-ROMドライブ
 - ・ CD-R/RW with DVD-ROMドライブ
 - ・ DVDマルチドライブ
- など

取り付け可能なVersaBay IVb対応機器の情報は、NECの企業向けパソコン関連総合サイト「NEC 8番街」(<http://nec8.com>)の「商品の適合検索」でご確認ください。

1. 「サポート情報」をクリック
2. 左側のメニューの「商品情報・消耗品」にマウスポインタを合わせる
3. 表示されたメニューの「PC検索(新旧モデル情報/適合情報)」をクリック
4. 「商品の適合検索」をクリック

接続情報の検索方法を選択して、取り付け可能な周辺機器をご確認ください。

チェック!!

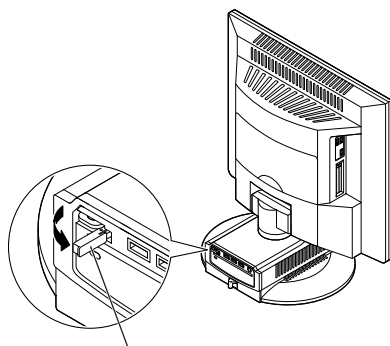
本機のハードディスクパスワード機能を使用してセキュリティーを有効にしたセカンドハードディスクドライブは、他機では使用できません。他機で使用する場合は、「PART3 システム設定」Startupの設定」の「パスワードの解除」をご覧ください。ハードディスクドライブのパスワードを解除してください。(P.133)

VersaBay IVbの機器を交換する

✓チェック!!

VersaBay IVbの機器を交換するときは、本機の電源を切ってから行ってください。本機の電源が入っている状態や、スタンバイ状態または休止状態中の交換はできません。

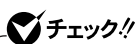
- 1 本機の電源を切る
- 2 筐体ロックなどを使用している場合は取り外す
- 3 本体背面にあるVersaBay IVbアンロックを、図のように引き起こす



VersaBay IVbアンロック

- 4 引き起こしたVersaBay IVbアンロックを押し込む
取り付けられていた機器が少し押し出されます。
- 5 取り付けられていた機器を引き抜く

6 取り付ける機器を挿入し、奥までしっかり押し込む



チェック!!

VersaBay IVbに機器を取り付ける場合は、本機を傾けたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本機を傾けた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。

7 筐体ロックなどを使用している場合は取り付ける

8 引き起こしたVersaBay IVbアンロックを折りたたむ

システム設定

この章では、BIOSセットアップメニューについて説明します。BIOSセットアップメニューは、セキュリティ、省電力など本機の使用環境を設定することができます。

この章の読み方

次ページの「BIOSセットアップメニューについて」を読んだ後に、目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

BIOSセットアップメニューについて	126
Startupの設定	130
Componentsの設定	135
Powerの設定	138

BIOSセットアップメニューについて

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューの起動と初期画面

BIOSセットアップメニューを起動する

- 1 電源を入れて「NEC」のロゴ画面が表示されたら、以下の画面が表示されるまで【F2】を数回押す

Insyde Software BIOS Setup Utility		XXX XX 200X hh:mm:ss PM
Startup Components Power Exit		
System		CPU
Internal FDD = 1.44		CPU = Intel(R)Pentium(R) M
External FDD = None		CPU Speed = XXXX MHz
Internal HDD = XXXXX MB		
XXXXX XXXXXXXX		
VersaBay Drive = XXXXXXXX XXXXXXXX		Memory
Serial Port 1 = COM1 3F8 IRQ 4		Base = 648 KB
Parallel Port = LPT1 378 IRQ 7		Extended = 255 MB
BIOS Version = XXXXXXXX		Shadow = 192 KB
Product name = XXXXXXXXXXXXXXXX		Reserved = 192 KB
Serial number = XXXXXXXXX		Total RAM = 256 MB
		Cache(Ext) = 1824 KB
Configure startup conditions (boot logo password etc)		

✓チェック!!

- ・ ブート可能なUSB機器(USB対応フロッピーディスクドライブなど)を接続していると、入力した【F2】が認識されにくい場合があります。この場合は、これらのUSB機器を取り外してから、再度上記手順を行ってください。取り外した機器は、BIOSセットアップメニューを終了した後で、再度接続してください。
- ・ ディスプレイ特性により、「NEC」のロゴ画面が表示されず、【F2】を押すタイミングが計れない場合があります。この場合は、本体の電源を入れた直後、キーボード上のNumLockランプが点灯するタイミングで【F2】を2~3回押してください。



BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・【 **↑** **↓** **→** **←** 】で設定項目および設定項目内を選択します。
- ・「Date」「Time」の設定ではカーソル移動は【 **Tab** 】で行います。
- ・【 **Enter** 】で設定項目を表示します。

BIOSセットアップメニューの初期画面について

BIOSセットアップメニューの初期画面に表示される項目は、以下の通りです。

System

- ・ Internal FDD
内蔵フロッピーディスクドライブのモードが表示されます。
- ・ External FDD
外付けのフロッピーディスクドライブが取り付けられている場合は、ドライブのモードが表示されます。
- ・ Internal HDD
内蔵ハードディスクドライブの容量が表示されます。
- ・ VersaBay Drive
VersaBay IVb機器が取り付けられている場合は、機器の種類が表示されます。
- ・ Serial Port 1
シリアルポートの設定が表示されます。
- ・ Parallel Port
パラレルポートの設定が表示されます。
- ・ BIOS Version
BIOSのリビジョンが表示されます。
- ・ Product name
型番が表示されます。
- ・ Serial number
製造番号が表示されます。

CPU

- ・ CPU
CPUの型名が表示されます。
- ・ CPU Speed
CPUの動作周波数が表示されます。

Memory

- Base
システムメモリ量を表示します。
- Extended
拡張メモリ量を表示します。
- Shadow
シャドウメモリ量が表示されます。
- Reserved
リザーブメモリ量を表示します。
- Total RAM
搭載されているメモリの総容量が表示されます。
- Cache(Ext)
キャッシュメモリ量を表示します。

BIOSセットアップメニューの終了

メニューバーの「Exit」の選択項目

選択項目	説明
Save and Exit	変更した内容を保存してから終了します。 (【F10】を押す終了方法と同じ)
Exit(No Save)	変更した設定を保存せずに終了します。
Default Settings	すべての選択項目を工場出荷時の設定値に戻します。(【F9】を押す方法と同じ)ユーザパスワードで起動した場合、本項目が選択できなくなります。
Restore Settings	変更前の値に戻します。

工場出荷時の設定値に戻す

工場出荷時の設定値に戻す方法について説明します。

- 1** 電源を入れて「NEC」のロゴ画面が表示されたらBIOSセットアップメニューが起動するまで【F2】を数回押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 2** 【F9】を押す
「Default Settings」のダイアログボックスが表示されます。

- 3 「OK」を選択し、【Enter】を押す
工場出荷時の設定値を読み込みます。
- 4 【F10】を押す
「Save and Exit」のダイアログボックスが表示されます。
- 5 「OK」を選択し、【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

以上で作業は終了です。

Startupの設定

Startupの設定

()マークが付いている設定項目は、ユーザパスワードで起動したときに変更可能な項目です。

Date and Time()

システム日付を「日/月/年(西暦)」で、現在の時刻を「時:分:秒(24時間形式)」で入力します。【Enter】を押すと設定画面になります。

Silent Boot

起動時に自己診断画面を表示するかどうかを設定します。「Enabled」に設定すると「NEC」のロゴを表示せずに自己診断画面を表示します。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。


LAN BIOS

「Disabled」に設定すると、ネットワークブート機能が無効になります。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。


Boot Device

システムを起動するデバイスの優先順位を設定します。起動するデバイスにOSがあるかどうかを検索します。もし検索したデバイスにOSが存在しないときなど、起動に失敗した場合は、その次に起動するように設定されたデバイスを検索します。【Enter】を押すと設定画面になります。

設定項目	設定内容	説明
1st Boot Device	Diskette A / VersaBay Device / Internal HDD/PXE LAN	1番目に起動するデバイスを設定します。
2nd Boot Device	Diskette A / VersaBay Device / Internal HDD/PXE LAN	2番目に起動するデバイスを設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

設定項目	設定内容	説明
3rd Boot Device	Diskette A/ VersaBay Device/ Internal HDD /PXE LAN	3番目に起動するデバイスを設定します。
4th Boot Device	Diskette A/ VersaBay Device/ Internal HDD/ PXE LAN	4番目に起動するデバイスを設定します。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

Set Admin password

管理者パスワードを設定します。管理者パスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。このパスワードを設定すると、BIOSセットアップメニュー起動時に表示されるパスワードの入力欄に、ここで設定した管理者パスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューを起動させないようにできます。【Enter】を押すと設定画面になります。

パスワードに使用できる文字は、半角英数字のみで、10文字以内です。(大文字/小文字の区別をします。)

チェック!!

- ・ パスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前にこの「Startupの設定」の内容を印刷しておくことをおすすめします。
- ・ ご購入元、またはNECに本機の修正を依頼される際は、設定したパスワードを解除、および無効にしておいてください。

 参照 NECのお問い合わせ先 『NEC PCあんしんサポート』

Set User password()

ユーザパスワードを設定します。ユーザパスワードとはBIOSセットアップメニューの使用者を制限し、またBIOSセットアップメニューで設定可能な項目を制限するための機能です。設定項目は、「Set Admin password」と同じです。【Enter】を押すと設定画面になります。

パスワードに使用できる文字は、半角英数字のみで、10文字以内です。(大文字/小文字の区別をします。)

 **チェック!!**

- ・ パスワードを設定する場合は、パスワードやパスワードの解除の方法を忘れたときのために、事前にこの「Startupの設定」の内容を印刷しておくことをおすすめします。
- ・ ご購入元、またはNECに本機の修正を依頼される際は、設定したパスワードを解除、および無効にしておいてください。

Password On Boot


起動時にパスワード入力を有効にするかどうかの設定をします。工場出荷時は、「Disabled」に設定されています。

Internal HDD Password

内臓ハードディスクドライブにパスワードを設定します。内臓ハードディスクへのパスワードは、管理者パスワード(Master Password)とユーザパスワード(User Password)の2つがあります。【Enter】を押すと設定画面になります。

パスワードに使用できる文字は半角英数字のみで、8文字以内です。(大文字/小文字の区別をします。)

- ・ 管理者パスワード(Master Password)
管理者パスワードは、ユーザパスワードを解除するためのパスワードです。管理者パスワードの解除方法については、後述の「パスワードの解除」ハードディスクドライブのパスワードの場合(P.134)をご覧ください。
- ・ ユーザパスワード(User Password)
ユーザパスワードは、本機とハードディスクドライブの認証を行うためのパスワードです。ユーザパスワードを設定することにより、本機以外でのハードディスクドライブの不正使用を防止できます。

 **チェック!!**

- ・ 管理者パスワードを設定しないとユーザパスワードは設定できません。
- ・ 設定したパスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータは、当社でも取り出せなくなります。また、パスワードを忘れたために使用できなくなったハードディスクドライブを交換する場合は有償になります。ハードディスクドライブのパスワードは絶対に忘れないようにしてください。

VersaBay HDD Password

VersaBay IVb対応のセカンドハードディスクドライブにパスワードを設定します。設定項目は、「Internal HDD Password」と同じです。

【Enter】を押すと設定画面になります。

パスワードに使用できる文字は半角英数字のみで、8文字以内です。(大文字/小文字の区別をします。)

パスワードの解除

管理者パスワード/ユーザパスワードの場合

管理者パスワード/ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューを起動して「Startup」の「Set Admin password」または「Set User password」にパスワードを入力して、新しいパスワードに何も入力せずに【Enter】を押すとパスワードが解除されます。なお、管理者パスワード/ユーザパスワードを忘れてしまい、パスワードを解除できない場合は、NECにお問い合わせください。

参照 ▶ NECのお問い合わせ先 『NEC PCあんしんサポート』

✓ チェック!!

パスワードの解除処置を依頼されるときは、次のことをご確認ください。

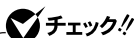
- ・ パスワード解除処置は保証期限内でも有償です。
- ・ パスワード解除処置は、原則としてお客様のお持ち込みによる対応となります。また、機密保持のため、お客様ご本人からのご依頼に限り処置をお受けいたします。
- ・ パスワード解除処置を依頼されるときには、次のものをすべてご用意ください。
 1. 本機の購入を証明するもの(保証書など)
 2. 身分証明書(お客様ご自身を確認できるもの)
 3. 印鑑
- ・ パスワード解除処置をご依頼の際、受付にてお客様ご自身より専用の用紙に必要事項を記入・捺印していただくことが必要です。専用用紙の記載事項にご同意いただけない場合には、処置のご依頼に対応しかねる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

ハードディスクドライブのパスワードの場合

ハードディスクドライブのパスワードは、BIOSセットアップメニューを起動して、「Startup」の「Internal HDD Password」に管理者パスワード（Master Password）を入力して、新しいパスワードに何も入力せずに【Enter】を押すとパスワードが解除されます。

Componentsの設定

Componentsの設定



チェック!!

ユーザパスワードで起動した場合、「Components」の設定は、変更できません。

Internal FDC

内蔵フロッピーディスクコントローラを設定します。「Disabled」を設定するとフロッピーディスクコントローラが使用できなくなります (I/Oロック)。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。

COM Ports(シリアルコネクタ)

設定項目	設定内容	説明
COM Ports	Disabled/ COM 1,3F8,IRQ 4 / COM 2,2F8,IRQ 3 / COM 3,3E8,IRQ 4 / COM 4,2E8,IRQ 3	COM Port(通信ポート、シリアルコネクタ)のI/Oアドレスと割り込み要求を設定します。「Disabled」に設定すると、他のデバイスにリソースを開放し、COM Portを使用できなくします。(I/Oロック)。

網かけの部分 COM 1,3F8,IRQ 4 は、工場出荷時の設定値です。

LPT Port(パラレルコネクタ)

【Enter】を押すと設定画面になります。

設定項目	設定内容	説明
Port Address	None/ LPT1, 378, IRQ7 / LPT2, 278, IRQ5/ LPT3, 3BC, IRQ7	LPT Port(LPTポート、パラレルコネクタ)のI/Oアドレスと割り込み要求を設定します。「None」に設定すると、他のデバイスにリソースを開放し、LPT Portを使用できなくします(I/Oロック)。
Port Definition	Standard AT(Centronics)/ Bidirectional(PS-2) / Enhanced Paralle(EPP)/ Extended Capabilities(ECP)	パラレルポートの動作モードを設定します。本項目は、「Port Address」の項目で「None」以外が選択されているときに設定できます。ご利用のプリンタのモードについては、プリンタのマニュアルをご覧ください。
DMA Setting For ECP Mode	DMA1 / DMA3	ECPモードで使用するDMAチャンネルを設定します。本項目は「Port Definition」で「Extended Capabilities (ECP)」が選択されているときに設定できます。
EPP Type	EPP1.7 /EPP1.9	EPPモードのEPP Typeを設定します。本項目は「Port Definition」で「Enhanced Parallel (EPP)」が選択されているときに設定できます。

網かけの部分 は、工場出荷時の設定値です。

Enable USB Port

「Disabled」に設定すると、USB接続のデバイスが使用出来なくなります。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。

Legacy USB

【Enter】を押すと設定画面になります。

設定項目	設定内容	説明
USB Keyboard and Mouse	Enabled / Disabled	USB接続のキーボード/マウスのレガシー機能を設定します。 「Disabled」に設定すると使用できなくなります。
USB Floppy	Enabled/ Disabled	USB接続のフロッピーディスクドライブのレガシー機能を設定します。 「Disabled」に設定すると使用できなくなります。
USB Floppy Booting	Enabled/ Disabled	「Enabled」に設定するとUSB接続のフロッピーディスクドライブから起動できるようになります。

網かけの部分  は、工場出荷時の設定値です。

Audio Controller

マザーボード上のオーディオ機能を有効にするかどうかを設定します。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。

USB2.0 Controller

USB2.0 Controller を有効にするかどうかを設定します。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。

Keyboard Numlock

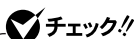
起動時にキーボードのNum Lockをオンにするかどうかを設定します。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。

  I/Oロック

I/Oロックは、外部とのデータ交換の手段であるI/O装置を使用できなくする機能です。本体からのデータ盗用や不正なプログラムなどの流入を防止できます。対象となるインターフェイスは「Internal FDC」、「COM Ports (シリアルコネクタ)」、「LPT Port (パラレルコネクタ)」です。I/Oロックを有効にするには、BIOSセットアップメニューでI/Oの設定項目を「Disabled」または「None」に設定します。

Powerの設定

Powerの設定



ユーザパスワードで起動した場合、「Power」の設定は変更できません。

SpeedStep Support

「Disabled」に設定すると、Intel(r) SpeedStep(tm)テクノロジーが使用できなくなります。工場出荷時は、「Enabled」に設定されています。MY80F/FR-Dでは、この項目は表示されません。

Resume On PME

LANによって電源を操作します。リモートパワーオン機能を利用するには、本項目を「Enabled」に設定します。

Power Loss Resume

設定項目	設定内容	説明
Power Loss Resume	Power On/ Power Off / Last State	AC電源(AC100V)が失われ、電源を再投入したときの復旧状態を設定します。 「Power On」はAC電源投入時に電源が入るようにします。 「Power Off」はAC電源投入時に電源は入らないようにします。 「Last State」はAC電源が失われたときの状態に設定します。

4

付 録

この章の読み方

順番に読んでいく必要はありません。目的にあわせて該当するページをお読みください。

この章の内容

割り込みレベル・DMAチャンネル	140
本機のお手入れ	142



割り込みレベル・DMAチャンネル

割り込みレベル

工場出荷時の割り込みレベルの割り当ては、次の通りです。

割り込みレベル	デバイス
IRQ00	カウンタおよびタイマ 1
IRQ01	PS/2接続キーボード
IRQ02	(空)
IRQ03	(空)
IRQ04	シリアルポート(A) 2
IRQ05	SMBus Controller
IRQ06	フロッピーディスクコントローラ
IRQ07	(空)
IRQ08	リアルタイムクロック
IRQ09	ACPI-Compliment System
IRQ10	(空)
IRQ11	(空)
IRQ12	PS/2接続マウス
IRQ13	数値演算コプロセッサ
IRQ14	プライマリIDE
IRQ15	セカンダリIDE
IRQ16	USB/グラフィック/シリアルATA
IRQ17	サウンド
IRQ18	USB/PCカード
IRQ19	USB
IRQ20	LAN/無線LAN
IRQ21	PCカード
IRQ22	(空)
IRQ23	USB 2.0

- 1 Windows XP、Windows XP Homeの場合のみ。Windows 2000の場合は空
- 2 別のI/O機器に変更する場合は、BIOSの設定を変更してください。

参照 ▶ 「PART3 システム設定」Componentsの設定 (P.135)

DMAチャンネル

工場出荷時のDMAチャンネルの割り当ては、次の通りです。

DMA チャンネル	データ幅	デバイス
0	8または16ビット	(空)
1	8または16ビット	(空)
2	8または16ビット	フロッピーディスクコントローラ
3	8または16ビット	(空)
4	—————	DMAコントローラ
5	16ビット	(空)
6	16ビット	(空)
7	16ビット	(空)

本機のお手入れ

本機のお手入れは、それぞれ次の要領で行ってください。

本体

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

本体の内部

長時間使うと、ほこりがたまるので、定期的に清掃してください。本体内部の清掃については、ご購入元、またはNECにお問い合わせください。

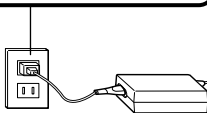
NECのお問い合わせ先 『NEC PCあんしんサポート』

ディスプレイ

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。また、ディスプレイの画面は傷などが付かないように軽く拭いてください。

電源コード

電源コードのプラグを長時間ACコンセントに接続したままにすると、プラグにほこりがたまる場合があります。定期的に清掃してください。



CD-ROMドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ、DVDマルチドライブ
クリーニングディスク(別売)を使ってクリーニングします。ひと月に1回を目安にクリーニングしてください。

キーボード

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。キーのすきまからゴミなどが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、ご購入元、またはNECにお問い合わせください。NECのお問い合わせ先 『NEC PCあんしんサポート』

マウス

布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、よくしぼってから、拭き取ってください。

マウスの内部

マウスポインタの動きが悪いときは、ボールとローラーもクリーニングしてください。
「マウスのクリーニング」(次ページ)

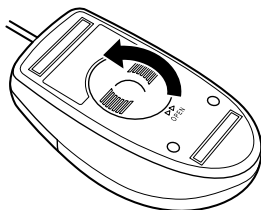
✓チェック!!

- ・ 水や中性洗剤は、絶対に本体やキーボードに直接かけないでください。故障の原因になります。
- ・ シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんは、使用しないでください。本体の外装をいためたり、故障の原因となったりします。

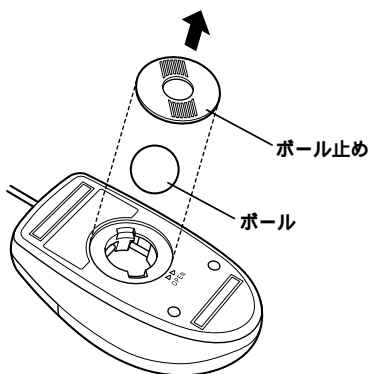
マウスのクリーニング

マウス内部のローラーやボールが汚れると、マウスポインタの動きが悪くなります。とくに汚れがたまりやすいので、定期的にクリーニングしてください。ローラーだけクリーニングするときは、4～6の手順は省略してもかまいません。

- 1 本機の電源を切り、マウスのケーブルをキーボードから外す
- 2 マウスの裏側のボール止めを、下図の矢印の方向に回転させる



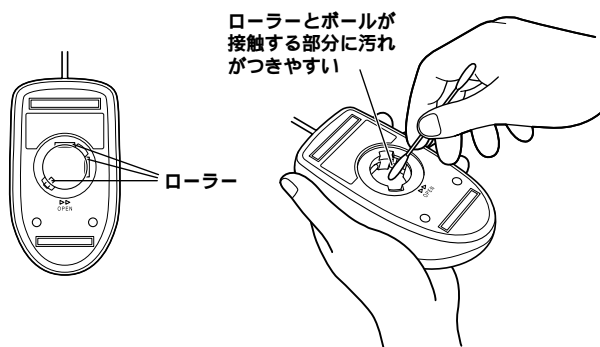
- 3 ボール止めを取り外し、ボールを取り出す



- 4 ボールを中性洗剤で洗い、汚れを落とす
- 5 水で中性洗剤を洗い落とす
- 6 布で水分を拭き取り、風通しの良いところで十分に乾燥させる

7 マウス内部のローラーの汚れを、水分を含ませた綿棒でこすり落とす

汚れが落ちないときは、柔らかい歯ブラシなどで汚れを取ります（このとき、歯ブラシに水やみがき粉などを付けしないでください）。



8 ボールをマウスに戻す

9 ボール止めを取り付け、手順2と逆の方向に回して固定

✓チェック!!

- ・ クリーニング中に、マウス内部にゴミが入らないように注意してください。
- ・ クリーニングの際にマウスから取り出した部品は、なくさないようにしてください。
- ・ 水や中性洗剤は、絶対にマウスに直接かけないでください。故障の原因となります。
- ・ シンナーやベンジンなどの有機溶剤は、使用しないでください。マウスの外装をいためたり、故障の原因となったりします。
- ・ ローラーの汚れを取る場合には、絶対に金属ブラシやカッター、ヤスリなどのような硬いものは使用しないでください。ローラーに傷が付き、故障の原因となります。



活用ガイド

ハードウェア編

PC98-**NX** シリーズ

Mate

液晶一体型

(Windows XP Professionalインストールモデル)
(Windows XP Home Editionインストールモデル)
(Windows 2000 Professionalインストールモデル)

初版 2003年11月
NEC
P

このマニュアルは再生紙(古紙率:表紙50%、
本文100%)を使用しています。

853-810602-116-A